高等学校における海外教育
参　考　資　料

Ⅰ　高等学校における海外教育指導手びき書

Ⅱ　海外教育研究会資料

Ⅲ　栃木県海外教育研究協議会紀要

海外移住事業団
(40.12)

0
1
4
RY

最近、高等学校における海外教育推進の気運が全国的に高まりつつあることは誠によろこばしい次第であるが、その手引となる資料の作成がかねてから渇望されていた。

幸い、早くからこの分野の研究を進めて来た栃木県の貴重な資料があるので、これらを纏め、今後海外教育をすすめる上の参考に供する次第である。

JICA LIBRARY
1024061[2]

昭和40年12月

海外移住事業団

国際協力事業団
受入月日 '84.7.27
登録No. 02795
000
24
EM

目　　次

Ⅰ　高等学校における海外教育指導手びき書

推せんのことば
ま　え　が　き
ま　え　が　き
1.　海外教育の性格とそのねらい …… 1
2.　各教科で取扱う海外教育 …… 1
(1)　社　　会　　科 …… 1
倫　理・社　会 …… 2
政　治・経　済 …… 5
日　　本　　史 …… 8
世　　界　　史 …… 13
地　　理 …… 22
(2)　農　　業　　科 …… 29
3.　海外教育を推進するための特別教育活動 …… 33
(1)　ホーム・ルーム …… 33
(2)　ク　ラ　ブ　活　動 …… 37
4.　海外教育を推進するための学校行事等 …… 38

Ⅱ　海外教育研究会資料

海外教育研究会日程 …… 41
社会科（地理A）学習指導案 …… 42
社会科（地理A）学習指導年間計画表 …… 44
ホームルーム指導案 …… 50
農業科２年ホームルーム年間指導計画表 …… 52
社会科（世界史A）学習指導案 …… 56
社会科（世界史A）学習指導年間計画表 …… 58
農業科（農業経営）学習指導案 …… 64
農業科（農業経営）学習指導年間計画表 …… 66
クラブ活動（海外移住研究クラブ）指導案 …… 72

Ⅲ　栃木県海外教育研究協議会紀要

海外教育研究協議会日程 …… 76
学　校　経　営 …… 77
社　　会　　科 …… 79
農　　業　　科 …… 83
特活・学校行事等 …… 85
生　徒　指　導 …… 88
進　路　指　導 …… 90

I　高等学校における海外教育指導手びき書

栃木県教育委員会
栃木県海外協会
(39.12)

推せんのことば

今日の青少年に望まれるのは，広い視野と独立進取の気概である。深刻化してきたいわゆる青少年問題を思うにつけても，この感を深くする。

このたび，栃木県教育委員会と栃木県海外協会との共編に成る「高等学校における海外教育指導手びき書」は，青少年に対する海外思想の普及によって国際理解を深め，海外発展の素地を培うことを目的とするもので，時宜を得た企画であると思う。

いわゆる海外教育については，指導の理念や内容に検討を要する問題が多い。本書では，高等学校の社会科，ホーム・ルーム，クラブ活動についての学習指導要領のワクの中で，海外教育と関連の深い指導事項を取り上げるとともに，指導上の留意点および関係資料を示している。特に指導上の留意点については，慎重に検討したことがうかがわれる。

海外教育に関するパイオニア的手引き書として，関係各位が参考にされることを期待する。

昭和39年12月5日

文部省初等中等教育局
中等教育課長　渋　谷　敬　三

ま　え　が　き

世界は，最近における航空機関の急速な発達によって距離的にも時間的にも大幅に短縮された。

その結果，各国間の人的・物的交流は，日に日にひんぱんの度を加え，各国民の生活は従来にも増して互いに密接な依存関係をもつに至った。

そのため各国の平和と繁栄とは，国際的なつながりとの関係なしには考えられなくなった。

したがって，国際理解と国際協力のための教育は，世界各国とくに先進諸国の学校教育に課せられた大きな課題となってきた。

特に，高等学校時代において形成される国際的な意識と態度とは，生徒の一生の方向を規定すると考えられるので，この時期における国際理解と国際協力についての教育は重要な意義を有するものである。

本県は，内陸に位置している関係からか，比較的海外についての関心がうすく，海外発展についての熱意にも乏しいと言われている。

そこで，このたび栃木県海外協会と協力して各高等学校に，生徒の国際理解や国際協力さらに海外発展についての関心を高めさせるための指導資料として，この手びき書を作成配布することになった。

本手びき書は，その内容もふじゅうぶんの点が多々あると考えられるが刊行の趣旨をご理解のうえ生徒の指導に活用されるようお願いする次第である。

昭和39年10月

栃木県教育委員会

教育長　小　林　道　一

ま　え　が　き

一口に海外発展と云ってもその意義は極めて広い。産業，文化，政治，経済，科学とあらゆる分野においての国外での日本人活躍の姿は，まさに日本民族海外発展の姿である。

とくに近代における科学の進歩は，世界を距離的にも時間的にも大幅にちぢめて，各国人の出入りは日に日にひんぱんの度を加えてきている。

かかる時代に生れて，日本人としてその持てる優れた素質を国際的にじゅうぶんに生かし，世界の文化に寄与することは，けだし人類の使命でもあり，民族の誇りと云わなければならない。

とりわけ，若い夢と果てしない希望にもえる青少年が広く眼を海外に向け，そこに新天地を求めて雄飛する姿は，新しい時代を背負う青年の象徴とも云える。

このような理想を，青少年の教育のうちにつちかい，海外発展の素地を養うことは，まさに時代の要請であり，民族発展の要諦であろう。

このような見地から，本協会は，かねて教育委員会の指導下に，県下高等学校のそれぞれの専門の先生の協力によって，海外教育指導手びき書の編集に着手し，爾来1ヵ年有余の日時を費やしてようやくここにその刊行を見るに至ったのである。

本書が海外教育振興のために，いささかでもい益するところがあれば幸せである。

なお，本書の編集にあたって終始尽力された教育委員会並に関係高等学校の諸先生にあらためて深甚なる謝意を表する次第である。

昭和39年10月

栃木県海外協会長

横　川　信　夫

1. 海外教育の性格とそのねらい

今日の政治，経済，文化についての多くの問題は，国際的な関連のもとで起っており，世界の諸国民の連帯によって解決する必要がますます強まってきている。したがって，人間の幸福と発展とは国民や地域の限られた範囲だけで実現できるものではなく，むしろ広く人類としての課題であることが意識されてきた。このような観点から国際理解を進め，国際協力の態度を育てることは，今日わが国における最大の課題と思われる。

しかるに現実には，誤った理解や偏見も多く，それらの誤解や偏見がしばしば青少年のころに形成される事実を認めざるを得ない。ここに，学校教育として，国際解理や国際協力の指導に，より一層の努力を重ねねばならない理由が感じられる。とくに高等学校では，生徒の能力の発達段階から考えても，この趣旨を徹底するに適した時期であると考えられるので，正しい国際理解と国際協力のための教育をおし進め，ゆがめられた理解や無知に起因する誤った態度，いわゆる国際的偏見を是正し，正しい知的理解と表裏した望ましい国際的態度を育成することが必要である。

ここに，海外教育のめざす最大のねらいがあり，このねらいのもとに，高等学校教育の全領域においてあらゆる機会をとらえて指導し，さらに，自己の持つ潜在能力をフロンティアに発現しようとする態度の育成をも助長しようとするものである。

このような海外教育を浸透させるために，各高等学校では次のような点に留意して意図的な指導を重ねることが望ましい。

(1) 海外教育は，各教科，特別教育活動および学校行事等という学校の教育活動の全領域を通じて行なうことを基本としなければならない。

(2) 海外教育は，事実に即した客観的な方法で進められなければならないが，その理解を進める過程では，常にわが国の生活や問題との対比のもとに行なわれることが必要である。

2. 各教科で取り扱う海外教育

(1) 社　会　科

前項で述べたように，海外教育は「高等学校の教育課程の全領域に通ずるものである」が，特に社会科は，その性格上最も直接的なつながりがあるといってよいであろう。したがって，社会科それ自体の目標にしたがって指導を行なうこと自体，さきに述べた海外教育のねらいに背反しないわけであり，この観点に立って指導を進めることが絶えず要請されるわけである。

しかし，社会科諸科目の個々の指導計画のすべてを，海外教育のねらいのもとに編成しようとすることは，かえって海外教育の本質をゆがめることにもなるので，ここでは，特に関連ある指導項目を取り上げ，補足して指導すべき事項や指導上の留意点を取り上げたものである。

倫理・社会において取扱う海外教育

まえがき　1.　関連単元および特に関連ある指導事項等は，「倫理・社会指導の手引き」（栃木県教育委員会編）を参考にして作成したものである。

2.　海外教育に特に関連のある指導事項のみをとりあげたので，教科のすべての事項についての展開をはかり，海外教育と関連させようとしたものではない。

3.　展開例は1時間配当で作成した。

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
Ⅰ　人間性の理解	1.　人間と文化 ア　人間とは何か イ　文化とは何か ウ　人間と文化の関係 ・文化の維持と創造 ・人格の形成 ・社会的な性格 職業による相違 地方による相違 国民性の相違	○文化（行動様式としての）の習得によって人格が形成されること，その結果として社会的性格が形成されることを認識させる。その際世界の諸地域の文化（言語，宗教，生活様式など）の相違についても簡単にふれる。 ○社会的性格の相違について考えさせ，栃木県人，日本人の特性を認識させて長所を伸ばし，短所を改めようとする態度を養う。 ○国民性については，イギリス，フランス，ドイツ，スペイン，日本人など典型的なものの他に，中南米，東南アジア，アフリカなどについても調べさせ国際理解を深めさせる。	○県民性の調査 栃木県連合教育会 ○笠信太郎著 「ものの見方について」 角川文庫 ○長谷川如是閑著 「日本的性格」 岩波 ○岸本丘陽著 「広い天地へ」 アマゾン会出版部
	2.　青年期の問題 ア　人間の一生 ・一生を支配する条件 ・さまざまな人生 ・青年期の意義 イ　青年期の特徴 ウ　青年期の課題 ・現代青年の人生観世界観 ・青年の進路 ・青年期と自己形成	○人間の一生について考えさせ，一生を有意義に送った人々の例をとって，その人の生き方，考え方にふれさせて，人間一生における青年期の重要性について認識させる。その際，海外に移住して成功した人の例も取り上げるようにする。 ○現代青年の人生観，世界観（例えば，価値と理想，幸福など）について，海外や日本の調査統計，資料などをもとにして考えさせ，世代の共通点や相違点を理解させるとともに，正しい人生観，世界観確立への手がかりとさせる。 ○進路（職業）の選択，決定の問題についてはH・Rと関連づけて指導する。その際，海外に雄飛する道や方法のあることにもふれ，海外への関心をたかめさせる ○輝かしい未来のためには，現在の自己研修が大切であることを強調し人間的成熟の条件，理想的な人間像，望ましい人物などについて考えさせる。 その際，海外移住希望者に対する期待についてもふれるようにする。	○「海外移住読本」 上巻　18～32頁 ○同上 48～50頁 79～
Ⅱ　人生観	1.　現代の思想と日本	○Ⅱの人生観，世界観の学習指導全体を通	

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
世界観	ア　社会主義 イ　実存主義 ウ　プラグマチズム エ　現代のヒューマニズム ・ヒューマニズムの意義 ・シュバイツアー ・ガンジー ・新しいヒューマニズム オ　現代日本の課題 ・一つの世界 ・人生観，世界観のあり方 ・進むべき道 ・われわれ日本人の責任	して海外への理解を深めさせるよう配慮すべきであるが，特に現代の思想については，現代に生きる世界人類共通の問題として人間性回復という観点から考えさせる。 ○ヒューマニズムを史的に概観させ，人間を尊重し人間を拘束し抑圧するものから人間を解放しようとするヒューマニズムの意義を正しく理解させる。 ○「生への畏敬」の理念に基づくシュバイツアーのアフリカ伝道，「サチャグラハ」非暴力主義に基づくガンジーのインド解放運動について学ばせ真の人類愛，平和主義について理解させる。 ○「野口英世」や「アマゾン先生」の例をあげ，海外に進出して後進地域のために献身することの尊さについて理解させる。 ○基本的な世界の動向にふれ，平和な一つの世界実現のためには，人間尊重の精神と諸民族，諸国民の協力が必要であることをしっかりと認識させる。 ○これまでに学んできた日本人の倫理観と，世界の他の倫理観を比較させ，日本人の特性を再認識させるとともに，合理主義精神の育成や個人の自覚と社会への奉仕の問題について考えさせ，新しい倫理確立の方向を明らかにする。 ○われわれの責任が，世界文化への貢献と世界平和実現への寄与にあることを認識させる。また，世界文化に貢献するには各人の立場で具体的にどうしたらよいか考えさせる。その際，海外移住の理念についてもふれ，低開発国への技術移住や農業移住の例などをあげて海外へ関心を深めさせる。	・務台理作著「現代のヒューマニズム」岩波新書 ・シュヴイツアー著作集　白水社 ・ガンジー自叙伝「わが真理の実験」筑摩書房 ・細井静男著「アマゾン先生」産報ＫＫ ・「ものの見方について」笠信太郎 ・Ｒ・ベネデクト「菊と刀」 ・海外移住読本
Ⅲ　現代社会と人間関係	1.　国家と国際社会の人間関係 ア　民族とは何か イ　国家と国民 ウ　愛国心 エ　愛国心と人類愛 オ　戦後の国際社会 ・国際連合 ・戦争と平和 ・日本人のあり方	○海外に移住する日本人は能力や技術は劣らないが，他民族への理解が不足して失敗したこともあるので，多数の異民族の中に住む少数民族のあり方として正しい民族意識やナショナリズムを理解させる。 ○他国家と国民にたいする海外日系人のあり方についてふれる。 ○正しい愛国心のあり方を把握させ，さらに海外日系人の活躍が日本の青年に夢と	・「倫理・社会指導の手引き」栃木県教育委員会編　Ｐ108 ・「海外移住読本」上巻　Ｐ40～41 ・少数民族の問題 ・同　上

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		希望を与え，国全体がたくましい気運のみなぎることに留意させる。 ○愛国心が狂信的感情や妄想によらず，人種，民族の偏見をすて深い人類愛に根ざすことを把握させる。 ○低開発国へ積極的に献身奉仕することによって，相互理解が生まれ平等互恵へと発展し，国際協調の実現が見出されることに留意させる。 ○国際社会における中南米諸国の地位と，中南米諸国間の事情についてふれ，米国あるいは国際連合などがどのような政策をもっているか理解させる。	P43〜45 ・細江静男著「アマゾン先生」産報KK ・朝日新聞記事「ブラジルの勝ち組，負け組」等 ・岸本丘陽著 ・「広い天地へ」アマゾン出版部 ・米州相互防衛条約 ・海外移住読本（上） P39

指導事例

関連単元 「国家と国際社会の人間関係」

特に関連ある指導事項 「愛国心」「愛国心と人類愛」

目　標 1. 民族，国家，国民の特質を明らかにし，正しい愛国心のあり方を考察させる。

2. 現代の国際社会が，人類愛という普遍的観念に媒介されて成立しつつあることを明らかにする。

指導内容	指導上の留意点	資料
1. 愛国心 (1) 過去の愛国心の功罪 戦没学生の手記を手がかりに過去の愛国心をつかませる。 (2) 正しい愛国心の在り方 ア 現代の愛国心 イ 移住者の愛国心 ・故国への愛 ・移住国への愛	○第2次世界大戦で，日本は多くの若者が祖国のために死んだ。かれらの多くは素朴に，純粋に国家と国民を愛して犠牲になっていったが，その背景には時代の潮流として皇道中心，侵略主義的なものがあったことを理解させる。 ○現代日本人の愛国心にふれながら，日本民族が国際間の「平和主義者」として核時代に生きぬく民族の自信をもって，日々の生活を貫く精神を把握させる。 ○富士山にふるえるほどの感想をいだいたヘンリー大江さんの話から父母の国日本への愛着をつかませ，海外日系人には母国が精神的支柱となっていることを理解させる。 ○民族相互の独立と発展を認めながら，努力と勤勉と汗でどこにでも住む，だれからも役立ち愛される人間になる，そこに自然の姿で人種をこえたヒューマニズムの精神があふれていることを把握させる。	・日本戦没学生の手記 ・家永三郎著「愛国心の問題」岩波現代思想 ・毎日新聞社編「新しい愛国心」 ・大田原高校資料 P140 ・大熊信行著「現代の天皇制」春秋社 ・ヘンリー大江特別手記「愛機よあれが富士山だ」 ・新聞記事「ブラジルの勝ち組，負け組」 ・細江静男著「アマゾン先生」産報KK
2. 愛国心と人類愛	○愛国心は国家と国民への愛情であるが，その底流にヒューマニズムの精神がなくてはならないこと	・清水幾太郎著「愛国心」 岩波新書

指導内容	指導上の留意点	資料
	をつかませる。	
評価	1. 正しい愛国心のあり方について理解させる。 2. 海外日系人の愛国心とはどういうものか把握させる。	

政治，経済において取扱う海外教育

まえがき　1. 海外教育に特に関連のある指導事項のみをとりあげたので，教科のすべての事項についての展開をはかり，海外教育と関連させようとしたものではない。

2. 展開例は1時間の時間配当で作成した。

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
Ⅰ 民主政治の本質	1. 民主主義政治体制と社会主義政治体制 ア イギリスの議院内閣制 イ アメリカの大統領制 ウ 社会主義政治体制 エ その他	○世界の主要国の政治組織を理解させるとともに，特に移住協定の締結されている南米諸国の政治組織にもふれ，その概要を理解させる。 ○先進国と後進国の政治の組織と運営について比較し理解させる。 ○このような政治組織の中で在留邦人がいかに活躍しているかなどの問題にも触れる。	海外移住読本(上) (P47)
Ⅱ 日本の民主政治	1. 日本国憲法の基本原理 ア 基本的人権の尊重	○海外移住の自由，国籍離脱の自由について特に取り上げる。 ○海外移住についてその概況をも理解させ移住協定締結国の概況にも触れる。 ○政府が種々の政策面から海外移住の政策を推進している現況について理解させる。 ○国際政治の問題にも若干触れる。	海外移住読本(上) (P38～
Ⅲ 国民経済の循環と発展	1. 貿易・国際収支	○自由貿易が国際分業を成立させたが，その一例として，ブラジルのコーヒー栽培を取り上げ，このような単一生産物が国際貿易においてどのような位置を占めているかを理解させる。 ○貿易外収入として入る移住者からの送金が，国際収支の中でどのような位置にあるかを認識させる。	「ブラジル読本」 日本海外協会連合会編 「熱帯農業」P28～ 同　上 「海外移住の効果」 同　上 P17～
Ⅳ 日本経済の発展	1. 農業構造の特色	○日本農業の相対的停滞性を理解させ，農業構造改善の必要性を強調し，企業的農業とはいかなるものであるか（農業の近代化）を理解させる。	「海外移住読本」 (上) 海外移住事業団編 P15～
Ⅴ 日本経済の諸問題	1. 労働，雇用問題 ア 資源と人口問題 イ 雇用問題 2. 農業と農村問題	○過剰人口対策の中で移住にもふれ，その数は必らずしも多くはないが，国策としての意義について理解させる。 ○農業構造改善の中で企業的農業とはどん	「農業基本法」

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	3. 長期経済計画と日本経済の発展	なものであるかを理解させるために，米大陸の近代的経営特に北米の機械化農業，南米の協同組合の実態にふれ，その関心をたかめる。 ○わが国の貿易構造が，東西アジア，南米諸国等後進地域の進出による経済環境の変化によって変りつつあることを理解させる。	伊東譲著「ラテンアメリカ地域内の貿易研究」農林水産業生産性向上委員会
Ⅴ 国際社会と国家	1. 国際経済と国民経済	○国連専門機関としての国際経済開発協会（ＩＤＡ）の機能についてふれ，更にＩＬＯ，ＦＡＯ等による国際経済の組織化について理解させる。	「国際政治」
Ⅵ 国際政治経済の動向	1. 国際政治の現状と課題 2. 国際経済の現状と課題 3. 国際関係と日本	○米ソの対立の中で，相互援助条約の締結ブロック化，民族独立等の動きが活発に行なわれているが，このような世界情勢の中で，ＡＡ諸国，中南米諸国がどのような立場におかれているかを認識させる。 ○また経済協力開発機構（ＯＥＣＤ），ＥＥＣ等の活動についても理解を深める。 ○我が国が低開発諸国に対してどのような経済協力を行なおうとしているかを調べ関心をたかめる。	

指導事例

関連単元 「日本経済の諸問題」

特に関連ある指導事項 「農業と農村問題」

目　標 1. 日本農業の現状を客観的に把握させ，日本農業の発展をはばむ諸原因について考究させる。

2. 日本農業が現在次第に変ぼうを余儀なくされている事情の理解の上に，来るべき日本農業の問題について考究させる。

3. 日本経済の構造改善の立場から一方法として海外移住の必要があることを理解させる。

指導内容	指導上の留意点	資料
題目名　来るべき問題 （農業近代化への道） 1. 農業近代化促進の要因 (1) 労働力の流出 ・労働節約の必要→機械化→労働生産上の向上 ・機械化→金銭支出の増加→機械の効率をあげる必要→	（指導上の留意点中「省略」は一般的指導の場合の事項であるので省略した意味である） ・近代輸出産業への労働力の移動だけでなく，その他の方法があることを考えさせるようにする。 ・その他　省略	

指　導　内　容	指導上の留意点	資　　料
経営規模の拡大→大規模化，共同化 (2) 農業の生産内容の変化 ・米麦中心→果樹→野菜→畜産→農作物金銭化の増大→企業経営強化の必要 (近代的経営) ・生産内容変化の原因 (所得増加に伴う食生活の変化　米，麦生産拡大の必要減少)	・省略	
(3) 貿易の自由化 (近代化への試練である)	・省略	海外移住読本(上)
(4) 海外への発展と移住 ・技術者の移住 ・農業移住	・低開発地域における農業は極めて将来性があり，農業移住者が低開発国の農業発展に大いに寄与していることを理解させる。 ・海外移住者が農業近代化(日本経済の構造改革)の一環で，重要政策の一つとして取り上げられようとしていることを理解させる。 ・後進国の移住者がどのように活躍しているかなどにも触れる。 ・この際日本の人口問題，労働過剰の現況にも少し触れる。	
2. 農業近代化への努力 (1) 農業基本法→農業の方向づけ，国の指導と助成 (2) 農民の組織の力→農業協同組合・農民組合 (3) 経営規模の拡大へ→資力の必要	・省　略	
3. 農村社会の近代化 (1) 封建制度の遺風の打破 (2) 農家の婦人労働の改善		

日本史において取扱う海外教育

まえがき　1.　海外教育に特に関連のある指導事項のみをとりあげたので，教科のすべての事項についての展開をはかり，海外教育と関連させようとしたものではない。

2.　展開例は1時間の時間配当で作成した。

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
Ⅰ　古代国家の形成と大陸文化	1.　朝鮮半島への進出 2.　大陸文化の伝来	○大和朝廷の積極的統一事業の一環として行なわれた我が国最初の海外発展の事例を朝鮮半島の高句麗・百済・新羅三国との関係や，好太王碑等の史実によって理解させ，任那を足場として大陸に発展しようとした創業日本の政治的意欲を充分に把握させる。	関　晃蔵 ○「帰化人」至文堂 森　克己著 ○「遣唐使」至文堂
	3.　帰化人の活動	○帰化人の活動によって大陸の進んだ技術や文化がもたらされ，秦氏，漢氏・東文首・西文首等の活動が朝廷の支配を強化した事実に注意させ，大陸文化の摂取による飛鳥貴族国家の成長と自主外交とに見られる内的充実を，海外進出の一例として認識させる。	○「海外移住読本」
Ⅱ　律令体制と文化の展開	1.　遣唐使 2.　天平文化	○遣隋使・遣唐使の派遣も新興国家の意欲のあらわれであり，その成果としての飛鳥，天平両文化，大化の改新などを理解させる。 ○当時の海外渡航が未熟な航海技術によって想像以上の困難を極め，生命をかけて入唐した使節等が，強い国家意識の上に行動し，わが国の文化，政治，経済上に偉大なる貢献をなした事実を，海外発展史上の立場から考察させる。	同　上
	3.　仏教文化	○唐僧鑑真が遣唐使に従ってわが国に入国帰化し，日本の仏教文化に寄与した業績も，帰化人と遣唐使の項を関連させて理解させる。	
Ⅲ　武家社会の変動と室町文化	1.　元，明との貿易 2.　倭寇	○足利尊氏の天竜寺船による元との貿易，足利義満を初めとする明との朝貢貿易の実態を，当時の海外事情と関連させながら指導し，シナ朝鮮沿岸に活躍した倭寇（商人団，擬装商人団，海賊商人団）の海外発展への意欲と意義とを把握させる。	小葉田　淳著 ○「中世日支貿易史の研究」刀江書院
	3.　朝鮮との貿易	○1398年義満によって開かれた朝鮮との貿易は，対島の宗氏をはじめ，西国の守護大名の積極的政策により朝鮮の港町に日本人の居留民が多く居住し，貿易に活躍した例をあげ，また1419年の応永の外寇，1510年の三浦の乱にもふれて当時の	○「海外移住読本」

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		海外進出の事例を今日の海外進出と比較し考えさせる。	
Ⅳ 封建社会の確立と新文化の形成	1. キリスト教の伝来	○宗教を通して，海外に目を向けた先進的キリシタン大名の政策の意義を把握させ，これが天正1年遣欧使節派遣となり，海外進出の端緒となった事情を認識させる。	吉田小五郎著 ○「キリシタン大名」至文堂 幸田 成友著 ○「日欧通交史」岩波書店
	2. 秀吉の対外政策	○ヨーロッパ人の東洋進出，日本人の海外発展については，今日の海外発展の形態と比較しながら指導すると共に，東西交流によって世界が拡大した点に注意させる。	岩生 成一著 ○「朱印船貿易史」至文堂 日本歴史学会編集
	3. 邦人の海外発展	○朝鮮をめぐる明との関係で，文禄慶長の役について理解させ，これが契機となって国民の目を海外に開かせ朱印船貿易，日本人町の建設等日本人の海外進出を著しく発展させた事情を認識させる。	○「人物叢書」吉川弘文館 ○「海外移住読本」P14
	4. 鎖国	○キリスト教の発展と海外発展とが，キリシタン大名，九州大名の勢力を増大させ，ひいては西欧諸国の領土的野心を危惧する結果となり，江戸幕府に対する種々の影響をおそれて鎖国に至った経過を充分に理解させ，海外渡航禁止，貿易統制政策がわが国近代化にどのように影響したかを考察させる。	
Ⅴ 近代国家の成立と近代文化	1. 明治維新 ア 身分制度の廃止	○家録奉還による失業武士救済のための士族授産，特に北海道開拓と開拓使のもとに創設された札幌農学校，そのよき指導者クラークの業績にもふれる。	信夫清三郎著 ○「明治政治史」弘文堂 和歌森太郎等 ○「図表近代日本史」弘文堂
	イ 地租改正	○急激な近代化政策のしわよせは，特に農村につよく，地租改正問題をめぐる農民一揆は，失業もしくは不平士族の動きと相まって，自由民権問題に至るまでの国内騒擾の続いたことを理解させる。 ○上記士族や農民の動きと関連してわが国最初のハワイ移住(1868年)とその失敗，1886年(明治19年)の日布渡航条約締結と本格的海外移住の開始にふれ，その後の官約移住，保護移住，奨励移住と発展した移住の歴史を理解させる。	鶴見俊輔等編著 ○日本の百年（10冊）筑摩書房 ○「海外移住読本」(上) P15～P24 下村富士男著 ○「明治維新の外交」大八州書店 清沢 洌著 ○「外交史」(現代日本文明史3) 東洋経済新報社 長島兼三郎著 ○現代の植民地主義 岩波新書 日本の歴史第11巻
	2. 対外政策と資本主義の発達 ア 日清・日露戦争 イ 日韓併合と条	○近代化に一応の成功をおさめた日本は日清，日露の戦争に勝ってその実力のほどを示し，アジア諸民族のホープと目されたが，同時にアジア大陸侵略者の立場に立つに至ったことを理解させる。	

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	約改正の成功	○条約改正の成功も戦勝の結果であって，日本は実力で西欧の植民地的立場から脱却したことを理解させる。 ○戦後の日本の進出を警戒し妨害を試みたのがドイツ，米のタフト，袁世凱であることにもふれる。 ○1908年(明治41)ブラジルへの最初の移住者(781名)が渡航したことにもふれる。	○明治の日本 読売新聞社
	3. 西洋文化の摂取と近代文化の発達	○1871年(明治4)岩倉等開国和親使節に従って渡航留学した留学生，五人の女子については特に留意させる。	
Ⅱ 国際情勢の推移と日本	1. 第一次世界大戦と日本 ア 大戦と日中関係	○二十一か条問題と五・四運動にふれ，それは日本が中国から受ける初めての本格的排外民族運動であることを理解させる。	信夫清三郎著 ○「大正政治史」 河出書房 遠山，今井，藤原著
	イ ベルサイユ体制と国際協調	○ウイルソンの理想主義は実現されず，英仏のための体制の感があったが，世界はこの組織によって平和を維持しようとし，日本も同調してその後平和のための多くの国際条約に参加したことを理解させる。	○「昭和史」岩波新書 児玉幸多等編著 ○図説日本文化史大系 第12巻 「大正・昭和時代」 小学館
	2. 経済界の不況と軍部の台頭 ア 日中関係	○国際協調主義をとりながらも，中国の政治的動揺に乗じて大陸に国勢をのばそうとする計画が，一部の軍部や政治家によって実行されたのが，済南・張作霖事件で，満州事変等につながることを理解させる。	○世界の歴史(第14巻) 「第一次大戦後の世界」　中央公論社 井上　清著 ○「日本近代史」 合同出版社
	イ 政党政治の腐敗と軍部の台頭	○ようやく成立をみた政党政治は資本主義の問題，特に大恐慌以後の不況の問題の解決ができず，その上腐敗政治を続けたので，政治の革新運動が起り政党政治は敗れ，軍部に支配された全体主義的挙国一致内閣に移行したことを理解させる。	日本の歴史第12巻 ○「世界と日本」 読売新聞社
	ウ 大陸への進出	○上記と平行して恐慌による資本主義の行きづまりと国民生活の困窮を大陸侵略によって打開しようと，明治以来の大陸進出を実行したのが満州，日華事変であることを理解させる。	
	3. 第二次世界大戦	○反共とベルサイユ体制打破による経済圏拡大の要求をかかげ，独伊に呼応して太平洋戦争に突入したが，中国の国共合作の民族主義と自由，共産両陣営の反撃を受けて敗れたことを理解させる。 ○この間国民の海外進出の気運は大いに高揚され，武力に守られた多くの移住者を送り自発的な移住者も多かったが敗戦と	歴史学研究会 ○「太平洋戦争史」5冊 東洋経済新報社

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		共に引揚げざるを得なかったことを理解させる。	
Ⅱ 世界平和と国民の課題	1. 国内体制の変革 ア 国土の縮少と過剰人口	○無理な戦争の結果は，明治以後アジア各地の旧領土その他に移住した海外居住者の総引あげを余儀なくされたことを理解させる。 ○領土の縮少と海外からの引揚げによる巨大な人口をかかえ，食糧の不足と相まって途方にくれた当時の状態を知らせる。	
	2. 戦後の世界と日本の立場 ・国 連	○国連はなお多くの問題を持っているが，世界はこの機構によって永遠の平和を維持しようとしていることを理解させ，国連尊重による国際協調の精神を養うように指導する。	横田喜三郎著 ○「国際連合」国土社 ○「現代史講座」全6巻 創元社
	イ 国際情勢の推移	○東西の対立，平和共存，軍縮や核兵器問題等国際問題は多く，日本の立場も微妙であるが進んで世界の平和と民族の幸福を守る積極的態度を養うよう指導する。	
	3. 国民経済の復興とその発展 ア 経済復興	○経済の復興，経済成長は目覚ましく，戦後の窮状は昔日の悪夢のように感ぜられ，今日では労働力の不足が喫ぜられているが，中小企業の問題，農業生産性の問題など重要な問題が未解決で残存し，人口と国土の問題も忘れてはならない問題であろう。	○海外移住読本(上)から戦後(1946～1960)の世界の移住者総数 a ヨーロッパからの移住者 7,284,156人 b アメリカ大陸等の移住者受入数 10,181,142人 c アメリカ大陸等の移住定着数 9,053,528人 d 日本の移住者は移住再開した昭和27年から37年までに 53,795人 ○「南米農業移住」全拓連
	イ 海外移住の問題	○いっぽう植民地の独立によって多くの帰国者を迎えたヨーロッパ各国も，過剰人口と国土の問題では日本と同様だが，ヨーロッパはこの人口を北米その他に移して解決していることを数字を示して認識させたい。 ○ブラジルその他への戦後の日本移住者の現状にふれ，ヨーロッパに比較してあまりにも貧弱であるが，決してわが国の前途が閉ざされてはいないことを認識させる。	
	ウ 低開発国への援助	○低開発地域への経済や技術の援助と共に，世界の平和に寄与するものであり，民族の将来の幸福への道であることを理解させる。	

〔指導事例〕

関連単元 「封建社会の確立と文化の興隆」

特に関連ある指導事項 「邦人の海外発展」

目　　標 1. 信長，秀吉，家康の対外政策の推移を国内の政治経済問題と関連の上で充分に

考察させ，邦人の発展の状態を，今日の海外進出と比較して理解させる。

2. 当時の国際状勢と社会状勢の中で，海外に雄飛した諸大名，豪商等の業績や日本人町の発展と活躍を世界史的立場から考察させ，海外発展への手がかりとする。

指導内容	指導上の留意点	準備と資料
1. 朱印船制度の拡大による海外貿易の発展 ア 朱印船貿易の意義 イ 家康の対外および貿易政策 田中勝介（イスパニア） 三浦按針 支倉常長（伊達家） 2. 朱印船渡航先—東南アジア・ルソン，安南，カンボジヤ，シヤム 3. 朱印船船主の活躍 島津，松浦，有馬（九州大名） 長崎—末次平蔵 京都—角倉了以，茶屋四郎次郎 大阪—末吉孫左衛門 4. 貿易品 輸出—銀，銅，いおう，樟脳，工芸品 輸入—生糸，絹織物（中国産），鹿皮，砂糖，香料，薬種（南方）毛織物，ガラス器（ヨーロッパ） 5. 日本人町 山田長政，浜田弥兵衛 コーチーツーラン（茶碕） フューホ（披舗） フィリッピン—マニラのヂラオ シャム—アユチア カンボジア—ピニアール，プノンペン	○秀吉の外交政策が徳川氏にどのように受けつがれたかを理解させる。 ○当時の海外事情を把握させ朱印船貿易の意義を理解させる。 ○当時の幕府や諸大名の海外発展への意欲と経済的発展との結びつきに注意させる。 ○朱印船の活躍が当時のヨーロッパ諸国の貿易をしのぎ，わが国経済の発展と国力発展に大いに寄与したものであることをよく認識させる。 ○山田長政を統領とする日本人町が，貿易上だけでなく，よく在留邦人の結束をはかり，東南アジア諸国の政治的，社会的発展に大いに寄与した業績を充分に理解させ，特に山田長政が，シヤムの王室を援け内乱を平定し，王侯に任ぜられた事例を取り上げ，海外発展の在り方と意義について把握させる。	岩生成一著 ○「朱印船貿易史の研究」 弘文堂 川島元次郎著 ○「朱印船貿易史」 弘文堂 岩生成一著 ○「朱印船と日本人町」 至文堂 日本歴史学会編集 人物叢書 ○「高山右近」 ○「支倉六右エ門」 ○「茶屋四郎次郎」 ○「山田長政」 ○「日本海外発展地図」 ○「朱印状写真」 ○「海外移住読本」

評価	1. 朱印船貿易の意義と当時の海外進出の状態が理解できたか。 2. 当時の海外進出の意欲がどんな原因から生じたものであるかを把握できたか。 3. 本単元を学ぶことによって海外進出の意義と在り方をどの程度把握することができたか。

世界史(B)で取扱う海外教育

まえがき　1.　指導要領の目標(6)に「国際社会において日本人の果たすべき役割について認識させ，国民的自覚を高め，国際協力を進め，世界の平和を確立し，人類の福祉を増進しようとする態度を養う」とあるが，世界史はどの単元をとっても，この目標達成の場でないものはない。海外教育の目標である国際理解，国際協力，さらには海外発展への関心を高めるために，特に関連があると思われる指導事項を列挙し，指導上の留意点を記した。

2.　展開例は時間の1時間配当で作成した。

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
Ⅰ　文明の起源	オリエントの国家 ア．インド，ヨーロッパ語族とセム，ハム語族の民族移動 イ．アケメネス朝ペルシアのオリエンのオリエント統一 ウ．フエニキア人の植民活動 エ．マヤ，アズテクとインカ文明	○これらの民族がよりよい安住の地を求めてつくり広げた歴史がオリエントの歴史であることを認識させ，世界の歴史は諸民族の安住の地を求めての歴史でもあるという世界史の一面に気づかせる。 ○オリエントに最初の世界国家を作ったアケメネス朝の異民族支配の優秀さを，暴力的で拙劣であったアッシリアと比較して考えさせる。 ○国土の狭かったフエニキア人が，早くから地中海に植民活動を行なったことに注意したい。 ○孤立した文化の停滞性に気づかせ，進んで他民族に接触する必要性を認識させる。	○「世界歴史大系」(14～15)　平凡社
Ⅱ　ヨーロッパの古典文明	ギリシア世界 1.ア．BC8以後の植民 イ．アレキサンダー大王の遠征とヘレニズム 2.　ローマ帝国とキリスト教	○狭いギリシア本土からエーゲ諸地域や小アジアに植民活動をしたギリシヤ人について理解させる。 ○大王のギリシヤ人植民によって，広大な地域がヘレニズム世界と化した点に注目し，周到な彼の政策を理解させ，ヘレニズム，コスモポリタニズムにもふれる。 ○BC1世紀シーザーのガリア征討などによって，フランス，イベリヤ半島地方がラテン系民族の居住地となって，現在に至っていることを理解させる。 ○ローマ帝国の世界性とキリスト教のそれの共通性に留意させる。	村川堅太郎著 ○「ギリシヤ研究入門」北隆館 ○「世界歴史大系」15～16　平凡社 村川堅太郎，秀村欣二共著 ○「ギリシヤ世界」世界歴史Ⅲ　河出書房 石原謙著 ○「基督教史」岩波全書
Ⅲ　アジア諸文明の形成	1.　イラン文明の成立 ア．絹の道の貿易とメソポタミアの富に依存	○絹の道のほぼ全体を支配し，路上にオアシス都市国家群を作ったイラン系民族の活躍にふれる。	松田寿男著 ○「東西文化の交流」至文堂

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	したパルチアササン朝 イ．ローマの後漢への遣使 ウ．ササン朝の民族主義文化 2．インド文明の成立 ア．アーリア人の民族移動 3．中国古典文明の成立 ア．春秋戦国時代 イ．始皇帝の外征と万里の長城	○一方ローマの紅海，インド洋から中国に直接貿易を開こうとした大秦王安敦の使者にもふれる。 ○アケメネス王朝以来のイラン文化の国際性とササン朝の民族主義文化の関係を理解させ，古代文化，古代国家の民族主義，国際主義について考えさせる。 ○アーリア人のインドパンジャブ地方侵入から，ガンジス中流域への進出は生活圏獲得のためのものであることに留意し指導する。 ○漢民族はこの期時に辺境諸候の政策もあって，富国と遊牧民の侵入を防ぐ目的から精力的な移住開拓を行ない，後世の生活圏をほぼ確立した事情を理解させる。 ○中国本土を匈奴の侵入から守る目的ではげしい外征や長城の建設が行なわれたことを理解させ，今日の長城にもふれながら長城以南が長い間漢民族の生活圏となったことを理解させる。 ○漢，匈奴，絹の道都市国家との関連から張騫，班超の業績を考え，絹の道をめぐるアジアの国際状勢を理解させる。 ○精力的な漢民族の植民活動としての朝鮮の四郡や，楽浪に朝貢し，やがて大陸へ進出しようとする日本民族の史上はじめての姿にもふれる。	○「世界の歴史(5)」中央公論社 利足　惇著 ○「インド史概説」アテネ新書　弘文堂 吉川幸次郎著 ○「漢の武帝」岩波新書
Ⅳ　東アジア文明圏の展開	1．五湖十六国の時代 2．東北アジア諸民族の動き 3．隋，唐の文化 4．宋の対外関係とその文化	○北方諸民族の華北移住とその同化について，それが中国の伝統的な文化にどう影響したかを理解させる。 ○華北の農民が流民となって，華中，華南に流れ江南の経済的開発が行なわれたことを理解させる。 ○魏晋南北朝時代の漢民族勢力の後退を機会に満州，朝鮮，日本に民族主義の動きが現われ，東アジアに日本を加えて，国際社会の形成されたことに注意する。 ○唐の明るく開放的な国際性文化と，その広大な文化圏について理解させる。 ○漢民族が北方遊牧民に対して守勢に立った時期で，排他性を持った民族主義，国粋主義が支配し，宋学の大義名分論（尊王華夷論）は日本への影響も大きいので，特に注意し指導する。	島山喜一著 ○「黄河の水」角川文庫 岡崎文雄著 ○「魏晋南北朝通史」 岡崎文雄著 池田静雄 ○「江南文化開発史」弘文堂 石田幹之助著 ○「長春の春」創文社

関連単元	特に関連のある指導内容	指導上の留意点	資料
	5. 蒙古帝国	○蒙古人の中国人に対する差別待遇と中国文化軽視，その他の諸民族に対する開放的態度について理解させ，その政治や文化にどう影響したかを理解させる。	岩村　忍著 ○「蒙古史雑考」 白林書店
Ⅴ　イスラム世界の形成	イスラム世界の成立	○イスラム教が，東西貿易に参加して，国際的となったアラビア人の手で，キリスト教やユダヤ教の一神教的伝統を受けついで成立したことを理解させる。 ○イスラム圏の拡大はアラビア人の生活圏拡大の運動であったことに留意させる。 ○イスラム文化の優秀性の一端は，その国際性にあったことを理解させる。	前嶋信次著 ○「サラセン文化」 アテネ文庫弘文堂
Ⅵ　ヨーロッパ世界の形成	1. ゲルマン民族の移動 2. 十字軍	○ゲルマン民族の移動の内的要因に留意し，土地を求めての移動であったことを理解させる。 ○ローマ帝国の西部に移住したゲルマン諸族は少数で，フランスやイベリヤ半島の民族が，現在ラテン系であることにもふれる。 ○遅れて少数で移動したノルマンが，強い同化力を示し，郷に入って郷に従ったことを理解させる。 ○十字軍はいったん地域にとじこもったヨーロッパ人が，海外進出の第一歩を踏み出した行動であり，以後今日に至るまでその積極的な生活態度が続いていることに注意したい。	山中謙二著 ○「西洋中世史」有斐閣 増田四郎著 ○「西洋中世世界の成立」　岩波全書
Ⅶ　ヨーロッパ近代化への歩み	1. ルネサンスと東方文化 2. 反宗教改革とスペイン，ポルトガルの植民活動	○ルネサンスが西欧人の東ローマやイスラム教徒との接触によって起った点にも留意させる。 ○省略	坂口　昂著 ○「ルネサンス史概説」 岩波全書
Ⅷ　地理上の発見とヨーロッパ人の植民活動	1. 地理上の発見 2. ポルトガルの植民活動 3. スペインの植民活動	○地理上の発見は胡椒貿易の利を得ようとするヨーロッパ人のたくましい営利的冒険として行なわれたことに留意する。 ○ポルトガルの植民地は，掠奪貿易の拠点で，後のブラジルのプランテーションを除いてやがて衰えるものであることに留意する。 ○中南米の掠奪的銀の採掘によるスペインの栄光はやがて衰えるが，中南米のプランテーションにより，この地域がスペイン人の永遠の移住地として確保されたことを理解させる。	○松本平治著 「地理上の探検」 至文堂 ○河野健三著 「西洋商業史」 三笠書房 ○木住田祥男著 「西洋経済史」 日本評論新社 ○大川周明著 「近代ヨーロッパ植民史」　慶応書房

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	4. オランダの植民活動	○オランダ重商主義は中継貿易をたてまえとし，植民地はその基地にすぎないので，やがてイギリス重商主義に敗れることに留意する。ここではインドネシアのプランテーションにもふれる。	○村松蒸編訳「オランダの東インド経略概史」大日本出版
	5. イギリスの植民活動	○香料貿易を早く断念し，インド経営に向ったイギリスの幸運にもふれたい。 ○イギリスの北米植民活動は，農業移住者型であるが，フランスのそれは毛皮商人の基地にすぎないことに注意したい。 ○イギリスのフランスに対する勝利は，本国毛織物工業の優劣に関係していることを理解させる。	○ファランド著（名原・高木訳）「アメリカ発展史」岩波新書
Ⅸ アジアの専制国家	1. 明と東アジア ア 北虜と南倭 イ 秀吉の朝鮮出兵 日本人町 ウ 華僑	○排他的であった明政府と，室町幕府の勘合貿易と民間の倭寇について理解せしめ，海外発展の意欲が国民間に高まっていったことを理解させる。 ○わが国の安土，桃山江戸初期にかけて日本民族がその歴史上まれな海外発展時代を現出させたことを理解させる。 ○中国人もまた，明末より明の海禁政策を犯して東南アジア各地に進出し，日本人町が鎖国によってやがて消滅してしまったのに反し，その地に安住して，この地域を中国人の生活圏の一部にしてしまったことを認識させる。	○秋山謙蔵著「日明関係」岩波講座（日本歴史Ⅳ） ○秋山謙蔵著「日本文渉史研究」岩波書店 ○東亜研究所編「異民族の支那統治史」講談社
	2. 清朝の中国支配 ア 中国史上における漢民族と周辺諸民族との関係 イ 清朝の中国支配	○この辺で漢民族と遊牧諸民族との抗争融合の関係をまとめて考え，海上に孤立した日本民族と比較してみたい。 ○功妙を極めたと評される清朝の中国支配について中国人の心をとらえた満州王朝の漢民族文化に対する態度の立派さにもふれる。 ○一方ますます強くなった中華思想にもふれ，それが近代化の障害となったことに注意し，民族的自尊心について考えさせる。	○長与善郎著「大帝康熙」岩波新書 ○島田虔次著「中国における近代思惟の挫折」筑摩書房
	ウ ヤソ会の伝道	○中国の風習を尊重しながら中国伝道に一応成功したヤソ会宣教師の活動にもふれたい。	
Ⅹ 市民社会の形成	1. 航海条令とオランダ，イギリス戦争 2. イギリスのアメリカ植民地 ア 開拓者	○自由を求めて新大陸に移住したイギリスの農業移住者が合衆国の基礎をつくったことを理解させる。プリグリム・ファーザーズの話は特に有益である。 ○植民地を本国の利益に奉仕させる利己主義が民植地独立の原因であることを理解	○中屋健一著「米国史」誠文堂新光社 ○高木八尺著「アメリカ」東大出版会

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	イ　本国の植民地政策 3.　ナポレオンの大陸封鎖と諸国民の反攻 4.　産業革命の影響 ア　交通通信の発達 イ　資本主義と移住	させる。 ○ナポレオンがフランスの利己的愛国主義を追求するにおよんで諸国民の総反撃を受けて敗れたことを理解させる。 ○世界はヨーロッパを中心に一体化を早めるが，ヨーロッパ人による世界の支配の方向であったことを理解させる。 ○資本主義はその成立と発展途上農村や都市に過剰労働者を生んだが，北米その他に移住して解決したことを知らせる。	○今井登志喜著 「英国社会史」 東大出版会 ○小松芳喬著 「英国資本主義の歩み」 早大出版部 ○井上幸治著 「ナポレオン」 岩波新書
Ⅺ　自由主義国民主義の発達	1.　ウイーン会議とウイーン体制 2.　ラテンアメリカ諸国の独立 3.　合衆国の西部開拓 4.　南北戦争と南部 5.　イギリスの繁栄と植民地政策の転換	○平和のための未曽有の大国際会議であったが，保守反動主義と大国の利己主義に支配されたので，その体制は間もなく崩壊したことを理解させる。 ○貧困者や移住者を大量に受け入れて，西部の開拓は1830年代頃から継続して努力され1880年代末には辺境は消滅する。このような開拓が合衆国繁栄の基礎となったことを理解させる。 ○奴隷を使ってのプランテーション没落の意味を理解させる。 ○自由党の植民地不要論から，自治植民地主義への転換などについて理解させる。 ○スエズの支配，インド帝国の成立などについて指導する。	○岡　義武著 「国際政治史」 岩波全書 ○田中耕太郎著 「ラテンアメリカ史概説」　岩波書店 ○高村象平著 「アメリカ資本主義発達史」　金星堂 ○山岸義夫著 「南北戦争」 アテネ文庫　弘文堂
Ⅻ　資本主義諸国の進出とアジアの変動	1.　インドの植民地化 2.　清朝の動揺と日本の近代化 ア　アヘン戦争アロー号事件 イ　英仏ロの中国周辺への進出 3.　日本の近代化	○19世紀イギリスのインド支配が，資本主義の典型的植民地政策であったことを理解させる。 ○セポイの反乱は，インドの近代的民族運動の出発点となるが，イギリスがインド帝国を成立させて支配を強化するに至った事情を認識させる。 ○中国の植民地化がはじまるが，ヨーロッパ資本主義の商品市場としての立場は，日本もまた全く同じであったことに気づかせる。 ○ビルマ，インドシナ半島，沿海州中亜等へ精力的な侵略が続くことを理解させる。 ○日本近代化の方向は，ヨーロッパの植民地的立場からの脱出にあって，資本主義の移植による富国強兵や条約改正などに努めたが，そのためには無理も誤りもあったことを理解させる。	○松田智雄著 「イギリス資本と東洋」 日本評論社 ○鈴木正四著 「セポイの反乱」 青木書店 ○矢野仁一著 「近世支那外交史」 弘文堂 ○遠山茂樹著 「明治維新」岩波新書

関連単元	特に関連のある指導内容	指導上の留意点	資料
XIII 帝国主義と第一次世界大戦	1. 帝国主義と対立激化 2. 日清，日露戦争と中国の近代化への努力	○帝国主義は19世紀の植民地主義よりはるかにきびしい方法で新しい植民地を要求し，世界再分割の様相をおび，その対立が世界大戦をひき起こしたことを理解させる。 ○日本は近代化にある程度の成功をおさめ，ヨーロッパ諸国なみの進出を大陸に成功させた事情を理解させる。 ○日清戦争は，列国の中国侵略を激化させた事情を理解させる。 ○日露戦争は世界の帝国主義の一翼として戦われたことをも認識させる。 ○清朝の近代化の失敗の原因についても考えさせる。	○世界史大系13 「帝国主義と第一次大戦」誠文堂新光社 ○世界の歴史(13) 中央公論社 ○江口朴太郎著 「帝国主義と現代」 （東大教養西洋史4） 創元社 ○市古宙三著 「近代日本の大陸発展」 螢雪書院
XIV ベエルサイユ体制下の世界	1. ウイルソンの原則と会議の結果 2. 民族自決主義 3. 国際連盟の設立と平和への努力 4. ソビエト外交とコミンテルン 5. 恐慌下の各国の経済政策 6. 中国の革命運動と日本の大陸侵略 ア 21条問題と五四運動 イ 満州事変と満州国	○ウイルソンの原則は，英，仏等の戦勝大国の利害によってくずされ，ドイツへの報復条約となったことを理解させる。 ○民族自決主義は，ドイツ，オーストリーハンガリー，トルコ，ロシア等解体帝国の後にのみ実現したが，第二次世界大戦後の大規模な民族自決を導き出し，一つの民族が不当に他を支配することの非を示したものとして高く評価されることを指導する。 ○平和維持，ヴェルサイユ体制維持のために生れたこの組織は，その後の国際会議と相まって多くの不備や問題を持ちながらも戦後の平和の維持に貢献したことを理解させる。 ○世界革命を目的としたコミンテルンを理解させ，今日のソビエトの平和共存外交と比較させる。 ○大恐慌以後，経済的国際協調は，破綻をきたし，各国は統制経済と自給自足主義のブロック経済によって恐慌を切りぬけようとしたから，自給力のよわいドイツ，イタリア，日本は経済的に危機に陥り，第二次世界大戦の方向に向かうに至った事情を理解させる。 ○中国の排外運動を真向から受けるようになったこの問題を理解させ，過去の日本帝国主義の非を理解させる。 ○経済圏の要求という意味を持ったこの日本軍部の行動は，国際連盟でわが国を孤立化させ，隣人中国民衆の憎悪を招くに至った事情を理解させる。	○小林栄三郎著 「ヴェルサイユ体制」 アテネ文庫　弘文堂 ○江口朴郎著 「帝国主義と民族」 東大出版会 ○田中直吉著 「世界外交史」有信堂 ○入江啓四郎著 「ヴェルサイユ体制の崩壊」　共栄書房 ○岩村三千夫 野原　四郎著 「中国現代史」 岩波全書 ○華岡天野訳 「五，四運動史」 創元社 ○波多野乾一著 「中国の国民党と共産党」　弘文堂 ○山崎　功著 「現代イタリヤ史」 岩波新書 ○具島兼三郎著 「ファシズム」 岩波新書 ○村瀬興雄著 「ヒトラー」 誠文堂新光社

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	ウ　西南事件と抗日国共合作	○中国全民衆をあげての抗日戦線を結ばせるに至った事情を理解させる。	
	7.　合衆国の善隣外交とラテンアメリカ	○ルーズベルトの友好的な外交政策によって，ラテンアメリカ諸国は，合衆国に接近し，経済ブロックを形成するようになったこと，合衆国の進出などを理解させる。	
	8.　イタリア，ドイツの全体主義	○イタリア，ドイツの全体主義は，不景気と貧困とベルサイユ体制に対する不満を母体とし，排外的民族主義をスローガンとして生まれたことを理解させる。	
XV　第二次世界大戦と現在の世界	1.　第二次世界大戦 ア　人民戦線と国民戦線 イ　日本，ドイツの軍事行動 ウ　民主主義と全体主義	○この戦争は，自由と民主主義を守る戦いとして理解されているが ①コミンテルン7回大会（1935）の指令で，スペインに生まれた人民戦線（1936），西安で生まれた抗日国民戦線（1936）と，日独伊間に結ばれた防共三国協定（1936～1937）との関係を理解させる。 ②経済圏拡大のためにヴェルサイユ体制を破壊しようとした日本，ドイツの軍事行動，独ソ，英仏，日米英の関係などから，この戦争の大義名分を理解せしめる必要がある。	○日本国際政治学会編「太平洋戦争への道」朝日新聞社
	2.　国際連合	○国際連盟を継続するものとしての国連の任務と，その欠陥を認めながらも，世界はこの組織によって平和を守ろうとしていることを理解させ，国連尊重の精神を養うように指導する。	○横田喜三郎著「国際連合」　国土社
	3.　二つの世界と冷戦	○戦後処理問題は，大西洋憲章以来連合国側で協定されてきたが，戦後になると，米，ソの本質的対立からついに全面的講和すら成立せず，二つの世界になったことを理解させる。 ○相互不信は，相互に集団防衛機構を作らせ，核兵器と誘導兵器の研究と生産の競走となったが，世界の平和にこのうえもない危険と考えられ，軍縮や核兵器制限の努力が続いていることを理解させる。	○世界の歴史16　中央公論社 ○世界史大系16　誠文堂新光社 ○具島兼三郎著「激変するアジア」岩波新書 ○西野照太郎著「鎖を断つアフリカ」岩波新書
	4.　アジア，アフリカの民族主義運動	○戦後後進地域では，一せいに植民地内的場からの解放運動が起こり，独立国家の成立をみたが，民族運動に近代化のための社会革命がからみ，米ソの対立が入りこんできたことを理解させる。	
	5.　中南米とキューバの民族主義運	○キューバは，前項の代表的例で反米民族主義と社会革命，米ソの対立がからみあ	

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
	動	い，ついに核戦争誘発の危機をも招いたことに気づかせる。	
	6. 戦後のヨーロッパ	○戦後のヨーロッパは，さまざまの問題をかかえているが，東西ドイツの問題，東欧の反ソ民族主義の外に米ソの間にあって西欧が団結しようとするＥＥＣの動きは，イギリスの参加は失敗したが十字軍以来のことで世界の平和とどう結びつくか考えさせる必要があろう。	○山本　進著「中南米」　岩波新書
	7. ヨーロッパの移住	○植民地の独立により西欧は，日本と同様多くの帰国者を迎えたがさかんな移住が行なわれ，新らしい運命の開拓の方向の一つがこの方向に向っていることに注目し，移住者の数を示して日本人の今後の指針とする必要があろう。	○海外移住読本　上巻
	8. ドゴールのフランスと中共の動き	○ＥＥＣからイギリスをしめ出すフランス，ソ連と対抗する中共のバック・ボーンは，それぞれの民族主義であることに留意させ，世界の平和とどう関係するかを考えさせたい。	

〔指導事例〕

関連単元「市民社会の形成」

特に関連ある指導事項「産業革命の影響」

目　　標 1. 工場制機械工業の特徴を整理して理解させる。

2. 資本主義の諸問題の概要と，特にその初期の問題点をイギリスの場合について理解させる。

3. 資本主義との関連において18, 19世紀イギリスの過剰人口問題にもふれどう処理されたかを理解させ，当面するわが国の問題をも考えさせる。

（指導上の留意点中「省略」は一般的指導上の留意事項なので省略した意味である。）

指導事項と学習活動	指導上の留意点	準備と資料
1. イギリスの繁栄	○この単元は指導事項が多いが，生徒は今までにしばしば学習の機会があったのでまとめるつもりで，特別の事項以外は深入りしない。	今井登志喜著「英国社会史」上，下　東大出版会
ア　人口移動と工業都市の発展	○大規模農業経営を目的として農業革命と第二次エンクロージアによる農村人口の流出を，その原因と結果について，現在の日本の場合と比較して考えてみる必要があろう。	リリー著小林伊藤訳「人間と機械の歴史」　岩波新書

指導事項と学習活動	指導上の留意点	準備と資料
イ　工業生産の増大と世界の工場となったイギリスの立場 ウ　産業革命の波及 2.　工場制機械工業の特質 ア　営利的商品生産・大量生産 イ　分業と機械と動力 3.　産業革命の影響 ア　物質的消費生活の向上 イ　交通・通信の発達と世界一体化 ウ　労働者の生活 エ　労働者保護立法 オ　ラッダイト事件 カ　社会主義思想の発生 キ　産業資本家の自由主義経済政策の要求と選挙法改正運動 ク　他の大陸への人口移動	○資本主義の先進国の後進国に対する優位を理解させる。 「省略」 ○世界の一体化が急速に進むが，ヨーロッパ諸国民による世界支配の方向に向かったことを理解させる。 「省略」 ○農村から都市への人口移動や，資本主義内部に発生した過剰労働力が，結局，全面的にはその国の工業部門に吸収されずに，新大陸その他に大量の移住者を送出することになった事実を数字を示して理解せしめる(左に数字を示す)。この際日本の当面する過剰人口と移住の問題にもふれる。	土田貞次郎著 「産業革命史」 改造社経済学全集 大塚久雄他 「産業革命史と資本主義」 現代史講座Ⅴ創文社 小松芳喬著 「英国資本主義の歩み」 早大出版部 ヨーロッパから北米への移住者　1846〜1932 国名 / 移住数 イギリス 1,802万 イタリア 1,009〃 オーストリア ハンガリー 519〃 ドイツ 488〃 スペイン 465〃 ポルトガル 180〃 スエーデン 120〃 ロシア 225〃 好学社地理　B 教授資料　133頁

評価	1.　産業革命と資本主義や労働者の問題については今までの理解が整理され，正しく世界史の上に位置づけることができたか。 2.　19世紀においてイギリスの占めた優位と資本主義との関係や，後進国との関係が理解できたか。 3.　イギリスをはじめヨーロッパ資本主義の諸国の過剰労働力の処理法が理解されたか。

地理(B)で取扱う海外教育

まえがき　1.　地理上においては，単元すべてが海外教育に通じるものであるが，日本の海外発展という見地から，とくに関連があると思われる事項をとりあげ，指導上の留意点とした。

2.　展開例は時間の1時間配当で作成した。

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
自然環境	世界の気候区と植物分布 世界の土壌分布とその特資	○一般にアマゾンといえば暑熱，熱帯病，ワニで人間の住めるところではないという誤った認識を改めさせる。 ○熱帯から亜熱帯にかけて分布するラテライト土壌地域に介在して，テラ・ロッサがあることに注意させる。 分布　ブラジル高原（コーヒー栽培）地中海沿岸等。	○月刊「地理」9巻7号 古今書院 ○神田錬蔵「アマゾン河」中央新書 全般を通じて ○「世界文化地理大系」平凡社 「○世界の文化地理」講談社 ○「世界地理風俗大系」新光社 ○「日本国勢図絵」国勢社
農牧業	1.　新大陸の農牧業 ア　USAの農牧業 イ　中南米の農牧業 2.　アジアの農牧業	○USA（カリフォルニア・ハワイ等）で園芸農業や米，甘蔗，パインアップルの農業を経営する日本人の動向を把握させる。 ○ブラジル，サンパウロ周辺で近郊農業（リオ・デ・ジャネイロ，サンパウロに供給される果樹，野菜，鶏卵の70～100%が日系人の手で生産されている）やコーヒー園を営む日本人の動向を理解させる。 ○アマゾン地域開拓の先駆者としてコショー（ピメンタ），ジュートのプランテーションを経営する日系人の動向について知らせる。 ○ブエノス，アイレス近郊で花卉栽培に従事する日本人の動向にもふれる。 ○ボリビア，ペルー等で活躍する日本人の動向にもふれたい。 ○後進地域援助開発計画の一環としてインド，パキスタン，セイロン，インドシナ半島等で稲作技術の指導に当る日本人技術者の活躍状況にふれ，日本農業の海外進出の一例として認識させる。	○外務省移住局「南米の農業地理」 ○Pジョルジュ「世界の農業地理」白水社(クセジュ) ○月刊「地理」9巻8号 古今書院 ○中田正一著「青年の見たインド，セイロン，パキスタン」文教書院
林業と水産業	1.　林業 熱帯林の利用と開	○アマゾン開発の一環として熱帯性樹木（ゴム，ヤシ，コショー等）の利用につ	

関連単元	特に関連のある指導内容	指導上の留意点	資料
	発 2. 水産業 ア 日本の水産業 イ 低開発地域の水産業	いて説明し熱帯林の特性を理解させる。 ○水産資源開発のため大西洋（ブラジル沖合）まで進出する日本の水産業（大洋漁業等）について説明し，零細な沿岸漁業との較差を理解させる。 ○日本の水産技術が水産後進国の開発に貢献していることを把握させる。	
鉱工業	1. 動力資源と動力問題	○中南米諸国の開発がおくれた理由の一つとして，動力資源（石炭）が未開発であったことを理解させる。	○「国連統計年鑑」原書房
	ア 石炭 イ 石油	○分布を指摘する際，資源開発する資本の国際性にふれ，国際石油資本と産油国との関係についても理解させ，そのカルテルの独占地域に日本の進出がいかに困難であったかを理解させる。 ○進出例としてペルシア湾に発展したアラビア石油とスマトラ島に進出した北スマトラ石油等をあげ，これ等の場合，資本は日本と現地資本との合弁であることに留意させる。 ○ベネズエラの油田と共に，アマゾンやブラジル東部で開発中の油田と，アルゼンチンの油田も説明する。 ○国内需要増大のため，日本政府は海外の石油資源開発に本腰を入れ中近東，北アフリカ東南アジア等に積極的に進出を図っていることを認識させる。	○「国勢図絵」国勢社 駒村義太郎著 ○「中東の石油」岩波新書 ○「クウエート要覧」クウエート大使館 有沢広巳編 ○「日本のエネルギー問題」岩波新書
	ウ 鉄鉱	○日本は国内の鉄鉱資源が自給できず，戦前から国外に進出していること（中国，東南アジア等に）と，今後も需要の増大が見込まれ，積極的に国外における未開発地域を開発しなければならないことを理解させる。 ○日本の三大合弁事業の一つとして世界有数の埋蔵量を示すブラジルミナスゼラエス州の開発のため進出したウジミナス製鉄所について，日本企業の海外発展という面と現地に与える影響も理解させる。 ○日本が，インド，マレーシア，中南アフリカ等にも進出していることを知らせ，ブラジルを含めて，その多くは現地資本との合弁事業でその地域の発展にも寄与していることを理解させる。	
	エ 非鉄金属	○ボーキサイトではインドネシア，マレーシア，錫ではマレーシア，ボリビア，ニッケルではニューカレドニア等にも日本	

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		資本が進出していることを理解させる。	有沢，脇村共著
	2. 工業生産と工業地域 ア 低開発諸国の工業地域	○先進工業地域と後進工業地域の性格の相違を明らかにし，先進諸国が低開発諸国に果すべき使命というものを理解させ，日本も低開発諸国の工業の発展を積極的に援助し，協力する義務のあることを理解させる。その際低開発諸国開発援助の美名での，植民地主義的経済体制をさけ，名実共に共存共栄を図る必要のあることを認識させる。 ○開発援助の方法として，合弁事業もふくむ企業の進出，工業技術者の移住等を理解させる。 ○中南米諸国の中でも，ブラジルの工業化は著しいものがある。そしてその一翼として日本からの企業進出（トヨタ，石川島造船，鐘紡，日紡，豊和工業等）が盛んであり，農業移住と共に工業技術者の移住を歓迎している点を理解させる。 ○ブラジルのほかに，東南アジアではインドネシア，マレーシア，ビルマ，タイ，パキスタン，台湾，アフリカではナイジェリア，ガーナ，タンガニーカ等，ポルトガルに進出したプラスチック工業やエールのシャノンに進出したソニーのトランジスタ工業，ブラザーのミシン工業等の企業進出にもふれたい。	○「世界経済図説」 岩波新書 外務省経済局 ○「ＥＥＣの発展と展望」 日本国際問題研究所 ○「南米の経済と移民」 神戸大学中南米研究会 ○山本正雄著 「日本の工業地帯」 岩波新書
	イ 先進工業地域	○日本の工業が先進工業地域にも発展していることを知らせる。 ○進出例としてＵＳＡのアラスカパルプ（三大合弁事業の一つ）プラスチック（セキスイ），またＥＥＣ内に食いこんだベルギーホンダ（オートバイ）等にふれる。	
	ウ 日本工業の性格	○日本の工業が今や欧米工業国と肩を列べるような水準となり，その工業が低開発諸国の工業の発展に寄与できる立場にあり，またその義務もあることを理解させる。 ○日本の軽工業（中小企業等）も低開発諸の工業の発展に寄与しうることを理解させる。	
国土の保全と総合開発	低開発諸国の総合開発	○先進諸国が後進諸国の向上と発展のため積極的にその地域に援助協力している点にふれ，日本もそれ等の地域の開発に参加していることを理解させる。（アジア……インドのバンクラーダム，アフリカ	○大谷省三著 「国土の改造」 岩波書店 ○伊藤博一著 「トンダーロード」

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		中南米等) ○低開発地域に日本の工業製品，技術が欧米に伍してそれ等の国々の開発に役立っていることと，機械や開発の国際入札に勝利を収めていることを理解させる。 ○戦争賠償の一環としての東南アジア（タイ，ビルマ，ベトナムのダニダム，ラオスの上水道，インドネシア，インド等）でのダム，道路等の建設にふれる。 ○米ソを中心として東西の低開発諸国に対する援助競争にもふれたい。	岩波新書
集落	1. 村落 2. 都市 ア 発達，位置形態 イ 都市計画と問題	○日本人が中南米(ブラジルのアマゾン等)に移住し未開発地を開拓し，集落を形成しつつあることにふれる。 ○中南米の高山都市やその他の地名の起源や地名のもつ意味を知らせ，中南米への興味を喚起させる。（リオデジャネイロ，ブエノスアイレス，モンテビデオ，エクアドル，ボリビア等） ○ブラジリアの建設では，首都を未開の内陸へ遷都することによって未開地域の開発を促進させることも理解させる。	○柴田徳衛著 「世界の都市をめぐって」　岩波新書 ○井沢実著 「スペイン語入門」 中央公論社
交通，商業	1. 交通 2. 貿易	○交通，通信の発達によって世界の時間的距離が短縮され，地球が縮少されたと同じ結果になったことを知らせ，中南米が地球の裏側であるとの考えを打破する。 ○中南米では道路，鉄道よりも航空路が発達していることを知らせ，交通の上からも南米の広さ豊かさを理解させる。 ○陸上交通では汎米公路，国連の手で開発中のアジアハイウエーについてふれる。 ○南米への移住船の航路や航空機のルートにふれ，生徒にアッピールする。 ○中南米，アジア・アフリカ諸国は，先進諸国と結びついた植民地型の貿易で近年工業化が進められているが，まだその型の貿易から脱却しきれない国々が多いことを明らかにし，それらの国々が発展するためには日本工業製品や技術が大いに寄与することを知らせ，特にプラント輸出を理解させる。 ○移住は単に移住者個人の問題であるばかりでなく，それにともない日本の貿易が伸長し，また国内の各種企業の海外進出を誘発して，母国の経済発展に寄与して	○兼高かおる著 「兼高かおる世界の旅」 講談社 ○大宅壮一他著 「世界の旅」中央公論 ○深田久弥著 「シルクロード」 角川新書 ○「わが貿易の現況」 ○「低開発国貿易と援助問題」 ○「ＯＥＣＤの手引」 日本国際問題研究所 ○国連統計局 「世界の経済成長と産業構造」　原書房

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		いることを認識させる。 ○低開発国の発展にともなって日本の貿易も伸びることを理解させる。	
人口	1. 分布，密度	○中南米，アフリカ等の人口稀薄地域を指摘し，その地域の生産性が大きいことと，将来性を強調し，その地域の開発発展のため稠密地域からの移住の必要性を認識させる。 ○一般に人口密度1 km²あたり8人になると移住者の受入について制限するようになることにふれる。 ○国外移住では最近の信頼のおけるデータを用い，主体となる欧洲人の新大陸への移住の実例を挙げ，送出国と送出数，出向地，また受入諸国とその受入数，出身国等にもふれ，日本の移住と比較し，いかに多数の人々が移住したかを理解させる。	○「国連人口統計年鑑」原書房 ○「各種年鑑図絵」 ○和田俊二著「移住と適応」古今書院 ○篁　暢児著「新南米移住読本」東京書房 ○永田　稠著「日本の外苑」文教書院 ○館　　稔著「人口分析の方法」古今書院
	2. 人口の増減と移動	○華僑，インド人，アラビア人，ユダヤ人等の活躍の様子にふれ，日本人の海外発展に参考となる事項も取り上げる。 ○送出諸国と受入諸国の特性を理解させる。 ○日本の国外移住を上記の事項と比較検討しつつ，簡単な歴史と戦前の軍国主義的思想による満洲等への移住の失敗にもふれ，戦前戦後を通じて未だ強く根を張る棄民思想を打破し，優秀な人材の海外発展の必要性を強調する。 ○海外日系人の分布状況を把握させる。 ○現在日本人の移住を受入れている中南米諸国（特に移住協定の結ばれているブラジル，アルゼンチン，ボリビア，パラグァイ）を知らせると共に，日本人の活躍状況にもふれる。	○湯浅克衛著「ラテン・アメリカへの招待」日本週報社 ○木間剛夫著「新しい移住地をめぐる」文教書院 ○館　　稔著「日本の人口移動」古今書院
	3. 日本の人口問題	○最大の受入国ブラジルの近況では，ブラジル国内では現在単純労働者は過剰で，何の技術も資本も持たない移住者は歓迎しなくなっていることを知らせ，行けば何とかなるだろうという安易な考え方を改めさせる。 ○日本の人口問題については，年少労働者の不足問題，都市集中の激化，過剰人口対策等をテーマに，生徒に討議研究させ，海外発展の必要性を把握させる。	

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
人種と民族	1. 世界の人種 2. 民族と国家 3. 言語と宗教 4. 文化地域	○日本人のおもな移住地域である中南米の人種，民族構成を理解させ，その地域が歴史的にも混血文化地域で人種差別が北米のようにあからさまにあらわれていないことを理解させる。 ○ブラジルは人種のルツボと云われる位種種雑多な人々が生活していることにふれる。（カボクロ文化） ○中南米の混血について，メスチゾ，ムラート，ザンボ等混血の複雑さを理解させる。 ○日本人の閉鎖的な局同根性で移住した場合，その他においても，その特色が遺憾なく発揮され，現地の言語も解せず，宗教も仏教を固守して，移住地では日本人移住者が一ヵ所にかたまって現地人と別な社会を形成し，その土地への順応性に欠ける場合が多い。特に思想的な不同化がある。中南米は欧風文化地域である。これからの移住者は，現地の事情をよく考慮し，「郷に入っては郷に従え」という考えでは，その土地に同化融合する必要のあることを認識させる。 ○不同化論をもって各国が排日運動（北米の場合にふれる）を起こすようなことがあれば，南米も合せて，日本人は誠に危いものといわねばならないことを理解させる。 ○中南米ではキューバを除いて，民族的感情の対立や階級意識の対立が稀薄であることを理解させ，中南米は政治的に不安定であるという一般の認識を改めさせる。	○科学読売編 「世界の民族」 河出Pバックス ○藤岡，姫岡共著 「世界地理民族誌」 朝倉書店 ○中屋健一著 「ラテンアメリカ史」 中央公論 ○ボール（川田訳） 「アフリカ民族と文化」 白水社 ○山本　進著 「中南米」　岩波新書 ○外務省編 「ラテンアメリカ事典」 ラテンアメリカ協会 ○末内信胤著 「中南米の研究」 世界経済調査会
国家と国際関係	1. 国家と国家群 2. 世界の動きと日本の立場	○既習の知識の上に日本人の海外発展の国際的地位と各国の動向を理解させる。 ○中南米について表裏をなす後進性と，その地域のもつ将来性を総体的に明らかにする。 ○アジアアフリカの新興国家の多くは独立国家として，まだまだ政治的にも経済的にも基礎の弱いものが多い。それ等の国々が全ての面で成長して行くために日本の果たすべき使命を理解させる。 ○低開発諸国を開発援助する国際，国内機関については，各種機関の名称を列挙するだけでなく，それらの持つ意義と役割	○月刊「国際問題」 日本国際問題研究所 ○外務省情報文化局 月刊「世界の動き」 ○稲田　繁著 「東南アジア問題の底辺」（上，下） 日本国際問題研究所 ○ドビー（小堀訳） 「東南アジア」 古今書院 ○「貿易自由化と経済外交」

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
		とまたその中で日本の果たす役割等を理解させる。	日本国際問題研究所 ○利根山光人著 「メキシコ」 雪華社

〔指導事例〕

関連単元 「人口」

特に関連ある指導事項 「人口の増減と移動」

指導目標 1. 世界における人口増加のありさまを理解させる。

2. 世界の人口移動の傾向と，日本人の海外発展の動向を理解させる。

3. 日本人の海外発展の意義と問題点を考えさせる。

指導内容	指導上の留意点	準備と資料
1. 人口の増減 ア 自然的増減 イ 社会的増減 2. 人口移動 ア 一時的移住 ・国内移住 ・国外移住 イ 永久移住 ・国内移住 ・国外移住	○新大陸諸国，特にラテンアメリカ諸国では，人口の自然的社会的増加の著しいことを理解させる。 ○アメリカ合衆国（カルフォルニア州）の派米農業労務者として移住した日本人青年の動向を知らせ，国内の出稼ぎ等による一時的移住と比較検討させる。 ○信頼のおけるデータを用いて，主体となる欧洲人の新大陸への移住の実例をあげ，送出国と送出数，受入数を知らせ，日本人の移住と比較させる。さらに，この比較を通して日本人の性格にふれる。 ○第二次世界大戦後，国内のへき地に開かれた開拓部落とブラジルを中心とする国外移住者とを比較させ，両者の可能性を検討させる。	「海外移住読本」P 9～10 派米農業労務者 条 件・満20才以上 ・農業従事経験者 待 遇・1時間＝1.25ドル 期 間・3ヵ年 入植先・日本人，米国人農家 経 過・一般の青年は約300万円前後の現金を持ち帰っている。
3. 日本の移住問題 ア 海外移住の歴史 イ 海外日系人の分布と現状 ウ 海外移住の問題点	○日本人の海外発展の歴史について簡単にふれる。 ○海外日系人の現況を知らせる。 ○海外移住のあり方について，戦前の植民活動をとりあげ反省させる。 ○今日の海外移住は，棄民や口べらしではなく，個人の発展と共に低開発国の開発を通して世界人類の福祉にも直結していることを自覚させる。	○県内各地の開拓部落と県人の海外発展の模様を調べ活用する 「海外移住読本」P14～23 「 〃 」P19～20

評価	1. 人口増加（自然的，社会的）の型と世界におけるその傾向を理解できたか。 2. 人口移動の形態を理解できたか。 3. 海外発展の意義と移住の在り方を理解できたか。

(2) 農　　業　　科

農業経営において取扱う海外教育

まえがき

海外教育に特に関連のある指導事項のみをとりあげたので，教科のすべての事項についての展開をはかり，海外教育と関連させようとしたものではない。

関連単元	特に関連のある指導事項	指導上の留意点	資料
農業と農業経営	1. 農業経営の近代化と経営能力 ア 農業経営の近代化	○農業が高度に発達すれば，農業は著しく機械化され，経営規模もますます大きくなる。このような農業経営のことを特に近代化的農業経営とよんでいる。先進国の農業がこのように企業的経営として成立していることを理解させる。（外国農業の事例）	
農業労働の生産性と機械，諸設備	1. 農業の機械化と労働生産性 ア 機械化による労働生産力の向上	○労働生産性を高めるためには，機械力をうまく利用して一つ一つの農作業の能率を高めなければならない。この意味において諸外国の農業（特にアメリカ農業における稲作）と比較してわが国の農業は単位面積当りの所要労働量が約60倍であり，機械化の程度が著しくおくれていることを理解させる。 ○単位面積当りの収量についても諸外国のそれと比較し，わが国が機械化農業を取り入れにくい諸条件について理解し，今後の経営改善に役立たせるようにする。	○「農業経営ハンドブック」 ルイジアナ州立大学編
農業所得と経営規模	1. 経営の集約化と経営規模 ア 経営の集約化 イ 経営規模とその拡大	○わが国と諸外国の農業が，経営集約度の立場からどのような差異があり，また特質があるかを理解させる。 ○「集約度限界」ということを理解させて，今後のわが国農業の進むべき方向などを総合的に判断できるように指導する。 ○労働所得をふやすには，集約化する方法と，経営面積を拡大する方法とがある。集約化を進めていき，集約度限界に近づいた場合には経営面積を拡大する必要があるが，この辺の問題点についてわが国の社会経済的立場から解決策を理解させるようにする。 ○国際的な農業生産性の向上のためには，特に国際協力が必要であり，わが国農業の将来などと関連して，わが国と最も関係深い移住地などにもふれて指導するようにする。	
経営改善と経	1. 共同経営とその	○近年わが国で行なわれている共同経営に	

営設計	設計 ア　共同経営の種類とねらい	ついて理解すると共に諸外国における共同経営特にソビエトや中国における集団経営などについても理解させるようにする。	
農産物の流通と農業金融ならびに農業協同組合	1.　農業協同組合 ア　農協の性格と事業（農協の役割）	○農協が農民自身の団体であることを理解させるため，協同組合主義の歴史的発展や海外における農協（コチア産業組合）などについても説明する。 ○新たな農民組織としての拓植農業の性格と機能について理解させる。	・海外移住読本
農業経営と農村社会	1.　家族経営と家族生活 ア　家族経営と家族の意味	○わが家の家族農業経営を理解させるために，諸外国における家族農業経営との相違点について説明する。 （例）Ⅰ）インドやアフリカ諸国における大家族農業経営 Ⅱ）アメリカにおける家族農業経営（親子共同経営の実態と家族生活） ○家族経営の実態を理解すると共に，都市の企業と同じように，多数の農業労働者を雇い，経営主はもっぱら経営の管理だけを行なう，資本家的農業経営（企業的農業経営）についても理解させる。 ◎南米移住地における農業経営	
	イ　家族生活	○わが国の農家家族の生活が農業の近代化を進めるうえにおいて，適切であるかどうかを判断させる。 即ち，親と息子家族の間における所得の配分や労働の受け持ち方が伝承的家族制度によって近代化の道をはばんでいることが多い。アメリカや欧米諸国における農家の家族生活を理解させて改善方法を指導するようにする。 ○諸外国の家族経営にみられる親子協定を理解させる。	・「アメリカの農業経営」 農業及園芸 第33巻第12号 （岩片磯雄）
	2.　農村の社会生活 ア　散居村と集居村	○わが国の農家は1か所に数十戸が集まっていわゆる集居村といわれる農村集落をなしているものが多い。これに反してアメリカの農家は散居村が多く，いわゆる村落制をとっているが，それぞれ両者の農業経営上の特徴を理解させて，今後の新しい農業発展のために役立たせるように指導する。	
	イ　農村生活の近代化	○わが国の農業は旧来の封鎖的で伝統的な農村生活を背景として，発展してきたが，最近における農村問題は特に深刻である。 古い習慣を打破して農村生活の近代化を力強く推進しようとする態度を養うよう	

		に指導する。また，自分の郷土を離れて，国際協力のもとに農業経営を海外にまで発展させようとする決断力と勇気が必要であることを理解させる。	
	3. 農村計画 ア 農村の構造改善事業	○農業構造改善事業の推進により農業の労働生産性が向上し，農民の新たな就業が考えられるが，国際協力のもとに，海外における農業経営の道がひらけていることを理解させる。 ○南米移住の現況，経営の概要などにふれて説明する。	
	1. 国民経済と農業および農業経営 ア 国民経済の成長と農業	○産業別就業人口の推移と国民所得の動向を理解し，更にこれが諸外国（特に先進諸国）とどのような相違点があるかを指導する。	
	2. 諸外国の農業	○外国農業の技術的特性について理解し，わが国農業の生産技術の改善に役立てるように指導する。 ○外国農業の制度や政策を理解し，また，農産物の国際貿易の動向などを理解させながら，わが国農業の進むべき方向を指導するようにする。 ○外国では，特にわが国農業の延長ともいわれるラテン・アメリカ諸国の農業事情について理解するように指導する。	
	ア ラテン・アメリカの農業	○わが国とラテン・アメリカとの歴史的関係をとおして農業事情を理解させるようにし，特に日本人の開発農場について指導するようにする。 ○ブラジルの産業と日本人との関係を理解し，日系農業者の活躍について説明する ○海外移住事業団がブラジルの経済開発に寄与し，わが国との親善関係をますます増大させて，両国の繁栄をもたらしていることについても指導するようにする。 ○アルゼンチン・パラグァイ・ボリビア・ドミニカ・ペルー・メキシコなど最もわが国と関係深い各国の概要について説明し，これらの諸国が広大な風土と豊富な資源をもち，未来への可能性をもっていることを理解させる。 ○わが国とラテン・アメリカの関係は今後ますます緊密化し，相互の友好と理解を深め，国際協力提携の実をあげねばならないことを理解させる。このことがやがて世界の平和と発展に大きく寄与することを説明する。	
	イ イギリスの農	○イギリスにおいて，農業経営近代化の基	

	業	調とされたものは，自由主義政策であった。このことをわが国の農業近代化に役立てるためには，どのように学びとるべきかを指導するようにする。 ○イギリスにおける農業史上，ヨーロッパ穀物恐慌がイギリス農業をどのように変化させたかを理解しわが国農業に役立てるよう指導する。	
	ウ　デンマークの農業	○デンマークの農業が19世紀のヨーロッパ穀物恐慌によって畜産に転換した。酪農業の発展がやがてデンマークの農協の運営をきわめて組織的にした。これはデンマーク国民の高度な公徳心と，共同の利益を守る組合主義がもたらしたものであることを理解し，わが国の農業においても学ぶべき点が多いことを指導する。	
	エ　アメリカの農業	○アメリカ農業が第1次世界大戦後，畜力農業から機械化農業に進み，労働生産性が飛躍的に向上した。また国内の過剰生産に対処して，海外にまで販路を開拓することになった。これらのことは大いに学ぶべき点であることを指導する。	
	オ　ソビエトの農業	○計画生産を基調としたコルホーズやソフォーズの集団経営について理解させる。（ソビエトの農業革命をもたらした歴史的要因についても理解させるように指導する。）	
	カ　東南アジアの農業	○農業国である東南アジア諸国がもつ，共通的な悩みを理解させる。 ○これらの諸国には経営を改善する基本的な政策として，農地改革があり，また，農民教育の問題が残されている。また，一般に普及されていない農業教育の振興が，これらの国々にとって近代化への近道であることも理解させる。	
	キ　中国の農業	○戦後の農地改革について，その概要を説明し，合作社とよばれる集団営農場が成立したことを理解させる。 ○中国が合作社の実績をみとめて，人民公社に改組し，更に工場その他の建設事業を包括して国民の労働を組織的に活用し，国の経済力の高揚に努めていることを理解させる。	

3. 海外教育を推進するための特別教育活動

(1) ロングタイムのホームルーム

現在まで海外に発展したり，あるいはその希望を持つ者が極めて少なかったため，このホームルームの時間に「進路の選択決定，適応に関する問題」，「人間として望ましい生き方に関する問題」の一例として「海外への発展」ということが全く取扱われていなかったのではないかと思われる。

しかし，わが国の産業経済の世界における地位と今後の動向を考えるとき，ホームルームの内容として「海外への発展」ということも含めて指導することが必要であると考えられる。

そこで，これらのことを考えたロングタイムのホールームの指導の一例を示せば次のとおりである。ただ，ここに示したものは，どの学校でも共通している内容を持たせるよう一般的なものであるので，実際に活用する場合には，学校の実情に応じて，さらにくふうと改善を加える必要があろう。

「進路の選択決定やその後の適応に関する問題」

第1学年　　自己理解（自己分析）

テーマの一例　○「わたしの個性と適性」　○「個性を伸ばそう」

題目	ねらい	活動の例	指導上の留意事項	資料
わたしの個性と適性（2時間）	自分の能力や個性，また家庭環境等を発展的に理解させ，適性を発見してこれを伸ばそうとする態度を養う。	1. 事前の準備 ○向性検査，適性検査を実施して，各人に自分の性格や適性等を知らせておく。 ○自己の能力，性格，適性，家庭，学校等を考慮し，別紙の形式で自分の希望進路について作文をつくる。 2. 展開 ○作文を集め，代表的な作品を抽出して司会者に発表させる。 （できれば，その本人に進路選択に当り，どんなことを考慮したか，また動機等について発表してもらう） ○発表を聞いて感じたことを話し合う。	○各種の検査を実施し，それを有効に活用し，また活用させる。 ○各自が自己の進路について包みかくさず記入し，発表できるようなホームルームのふん囲気をつくる。 ○ホームルームの準備と運営についてあらかじめ司会者に指導する。 ○生徒各自に個人差のあることを理解させる。 ○各自の能力や個性は変化し，発展する可能性を持っていることを理解させる。	・向性検査 ・職業適性検査 ・興味検査 ・身体検査 ・運動能力検査 ・知能検査 氏名 家庭の職業 世帯主との続柄 性格 {長所 短所} 趣味，特技 適性 高校進学の動機 将来の希望進路

		○卒業生や偉人の歩んだ道とその後の動向や，そのための努力等について自営，進学，就職（海外移住）の4つに分けてそれぞれの事例の説明をきく。	○自分の能力や個性にあった仕事や勉強は能率が上る。したがって自分を知り，その性格や能力に合った進路を選ぶことが大切であるということを理解させる。その際海外への発展という途のあることを理解させる。	

第2学年　　望ましい職業

題目	ねらい	活動の例	指導上の留意事項	資料
私は何になろうとしているのか（1時間）	自分の進学した高校の性格や身につけようとしている技術を自覚させ，これを発展的に伸ばそうとする態度を養う。	1. 事前の準備 ○希望進路調査を行ないそれを，集計大別しておく。 ○種別の異なる高校の教育課程とその履習時間を調べ表をつくる。 2. 展開 ○自分達は，どんな知識や技術を身につけようと努力しているのかについて話し合い種別の異る高校生との違いと自分達の特性を認識する。 ○自分達が身につけつつある特殊な知識や技術を生かして，自分をより伸ばすためにはどんな方向があるかについて話し合う。	○希望進路調査の項目に海外移住の項も含めておく。 ○種別の異る高校には，はっきりした性格の相違のあることを理解させ，またそれぞれの特性を生かすことが充実した人生への近道であることを認識させる。 ○自分達は，種別の異る高校生に見られぬ特技を身につけていることを自覚させ自信と誇りを持たせる。 ○自己を生かすために海外への発展という道のあることを知らせる。 ○海外には青年の希望をより多く満たす条件が多分にあることに気づかせる。 ○海外で自己の技術を生かすことが，世界人類の福祉増進に直結していることを理解させる。	○希望進路調査集計表 ○普，農，工，商，家等の高校の教育課程と履習時間表 農業高校生―農業移住 工業高校生―工業技術移住 詳細は下記の通り海外移住を取扱っている新聞，ラジオ図書などの中から適当なものを取り上げる。 ○海外移住（海外移住事業団） ○ブラジル新聞（品川区上大崎4の235）

第3学年　　職業の選択

題目	ねらい	活動の例	指導上の留意事項	資料
	自己の将来を決定する職場の選択に当り	1. 事前の準備 ○あらかじめ希望進路調査を行ない，それを集計大	○希望進路調査の項目に海外移住の項も含めておく。	○希望進路調査とその集計表

進路の決定（1時間）	正しい方向づけをすると共にその進路選択決定にともなう問題解決のための奮起を促す。	別しておく。 ○進路調査の集計結果から大別された進路について，卒業生の体験談を聞くためコース別にグループを編成する。 2. 展開 ○コース別に代表的卒業生をまねき，教師がそれぞれの卒業生を紹介する。 ○進学，就職，自営，海外移住者等それぞれの卒業生から，進学，就職の動機，希望進路達成のための努力，現状や問題点等を聞いて検討し，自己の方針を決定する。	○卒業生に直接体験談を聞かせてもらうことは，時間的経済的に困難な場合が多いと思われるので，その場合は右記のような項目を決め手紙で返事をしてもらう。 ○希望進路調査では，海外雄飛希望者は極く少数であったり，ない場合もあると思われるが，このような場合でも進路の一例として海外で活躍する日系人の姿を紹介し，個人の発展と共に国際社会の福祉増進に寄与していることを知らせる。 ○自営者については卒業後自家の経営を改善し近代化するための資金を調達する方法として派米労務者という制度のあることを知らせる。 （注）・（この派米制度は41年度から派米農業研修生と改められる。滞米期間は2年）	○卒業生の体験談，本人が来られない場合は下記のような項目に対する返事の便り。 1. 氏名 年令 職業 2. 進路決定の動機（できるだけ具体的に記入してもらう） 3. 希望進路を開拓するためにどんな努力をしてきたか。 4. 現状と反省 ○派米農業労務者 ・応募資格 満20才より健康 ・契約期間3ヵ年 ・待遇 日給4.000円前後 3ヵ年で300万円前後 の資金を持ち帰っている。

「人間としての望ましい生き方に関する問題」

第1学年　　LHR　　わが国民性

題目	ねらい	活動の例	指導上の留意事項	資料
外国から見た日本人（1時間）	外国に行って，遠くから日本を眺めるとき，日本および日本人は，どう見えるであろうか。国際社会の有力な一員として，外国と交際していくには，日本	1. 「海外留学生からのたより」，「海外移住先輩からのたより」等をあらかじめプリントとして全員に配布しておく。 2. 司会者が一読し，全体の意見をきき，その要点，特色を箇条書に板書する。 3. その外国のお国ぶり，生活の実態，人情等特に日本人のそれとの違いを指摘する。	○プリントを，各人がよく熟読しておきその内容をつかませておく。 ○司会者として，意見のまとめ方，板書の仕方等，あらかじめ指導しておく。	・NHK 「青年期の探求」 （昭39. 3. 16） ・「AFS」留学生のたより 「海外移住先輩」のたより （参考図書） ・渋沢敬三 「南米通信」 ・NHK特別報道班 「中南米を行く」

	人はどういう点を改めねばならないかを考えさせる。	4. 日本人として学ぶべき点は何か，またむしろ日本人の美点として自負してよいことは何かについて討議する。 5. まとめ　先生の話 「国際社会に生きる日本人」	○明治以後，近代国家として飛躍的発展をとげた日本，また敗戦の苦難にめげず世界有数の工業国として，国際社会に優位な地歩を確立した日本，われらはこれを誇りとし，大いに自信をもってよい。しかし反面，急激な進歩発展のかげに幾多の後進性と不名誉な国民性癖が残っている。これを克服してこそ，国際社会に生きる真の日本人が生まれることを充分理解させる。	・本間剛夫 「ブラジル」 ・他，世界紀行文 ・岩生成一 「外国人の見た日本人」 ・笠信太郎 「ものの見方について」

第2学年　　LHR　　愛国心

題目	ねらい	活動の例	指導上の留意事項	資料
愛国心とは何か（1時間）	戦前の独善，偏狭的な愛国心に対して，現代の国際社会における正しい愛国心のあり方について理解させる。	1. 戦前ほど愛国心がやかましく鼓吹された時代はない。しかしこれが日本の悲劇のもとになったのはなぜだろうか。全員で討議する。 2. 愛国心とは何か。次の諸例について考えてみる。 (1) 外国を旅行した人が日の丸の旗を見ると思わず涙ぐむという。 (2) 甲子園高校野球で沖縄のチームが一敗して去るとき，甲子園の土を袋に入れて，みやげに持ち帰ったという。 (3) 琉球の人たちが日本復帰を熱願しているのは，彼らの生活がよくなるからという希望のためだろうか。 3. 正しい愛国心の在り方，特に人類愛との関係について討議する。 4. まとめ　教師の話	○教科で学習した「明治以降の歴史」や戦争に関する記録，資料をあらかじめ研究しておく。 ○できるだけ，具体的な事例をあげて，愛国心の意味について考えさせる。 ○愛国心は各人の存在の母体であり，倫理的文化的共同生活体としての国家に対する愛情であるが，その底流にヒューマニズムの精神が必要であることを認識させる。 また，偏狭な愛国心に堕さないためにも，国際理解の必要性があることを理解させる。 ○少くとも日本は平和憲法をいだく国である以上，他国と戦争を構えるようなことを前提とする愛国心の鼓吹は，もはや許されない。 人が狭い利己心に打ち克って，自分より偉大なものの	・「日本戦没学生の手記」 ・中島健蔵 「昭和時代」 ・新聞記事 「ブラジルの勝ち組負け組」 ・清水幾太郎 「愛国心」

			ため奉仕し，献身し，ときにはその犠牲となることは，人間の美徳のうち，最高のものであることを考えさせる。	

第3学年　LHR　平和を望む心

題目	ねらい	活動の例	指導上の留意事項	資料
平和を望む心（1時間）	厳しい現実の国際関係―戦争の危機―に処して，いよいよ「平和のとりでは心の中に」の気構えを強くもたせる。	1. 戦争の記録文学，体験談などの資料を調べておく。 2. 戦争中の若い世代の異常な体験と考え方，また日常生活の悲惨なすがたについて話し合う。 3. 戦争は何故起るかについて討議する。 4. 現在，戦争防止のため，どんな国際協力がなされているかについて話し合う。 5. 平和は我々にとってどんな意味をもっているか。どうしたら真の平和がもたらされるか，について討議する。	○あらかじめ，数種の参考資料を指示し研究させておく。 ○戦争体験のない現在の生徒に対し体験を持った教師が生の助言を与えるとよい。 ○既習の知識にもとずいて，国際協力のための諸機構とその活動について考えさせる。 ○現在，日本人は，いわゆる「大平ムード」にひたり，世界の地域的な紛争をとかく対岸の火災視する傾きがあることに対し，厳しい反省を加えるとともに，いよいよ平和への心構えを強くもたせ，国際理解，国際協力の必要性と，海外発展の意義を考えさせる。	・「日本戦没学生の手記」 ・野間宏「真空地帯」 ・岩波講座「戦争と平和」 ・横田喜三郎「国際連合」 ・田畑茂二郎「世界政府の思想」 ・谷川徹三「東と西との間の日本」

(2) クラブ活動

高等学校にあって，国際理解や協力のための教育が意義があるように，国際理解や協力ないし海外発展について共通の興味や関心を持つ者が集まって，クラブを組織するようになることは，きわめて望ましいことである。それらには，郵便クラブ(郵便友の会)，ペンフレンドクラブ，ユネスコクラブ，海外研究クラブなどがあろうし，また，英会話クラブ，文芸クラブ，地理クラブなども，部分的には関連があるものであり，新聞部もまた，広報活動を通じ，校内におけるこの面の周知啓発に貢献するものであろう。

これらのクラブの中で，国際理解の協力，海外発展について，最も関係の深いクラブとして，海外研究クラブの指導計画をとり上げ例示してみる。指導計画であるから，活動計画は，これを

基礎にして，つくり上げることになろう。

海外研究クラブ

指導の重点	1. 国際社会における日本の立場を考え，国際理解や国際協力，さらに海外発展についての関心を高める。 2. 海外事情や海外移住の実態について具体的に研究させる。 3. クラブ員個々の活動よりも，全員が共同で行なう活動に重点をおく。 4. 成果を校内外に発表する機会を多くする。 5. 関連ある他のクラブ（エネスコクラブ，地理クラブ）などと，絶えず連繋，協力をはかる。
年間主要行事	1. 海外研究　毎月テーマを決めて，継続的共同研究を行なう。 2. 海外事情講演会　学校行事等に計画されている講演会に協力する。 3. 海外事情普及映画会　学校行事等に計画されている映画会に協力する。 4. 学校祭への参加　展示物の作成 5. 見　学　夏期休業中を利用して研修会，見学会を行なう。 6. 機関誌の発行　研究の成果をまとめさせる。 7. 海外生活者との交通　とくに先輩や学校関係者を対象にする。
備考	1. 本年度のクラブとしての研究の重点をラテンアメリカ諸国と，海外移住の制度と機構におく。 2. 資料入手先……海外協会，海外移住事業団，栃木県庁開拓課，栃木県拓植農業協同組合など 3. 見学予定場所……横浜港 4. 参考図書……木間剛夫「ブラジル読本」　永田稠著「日本の外郎」　木間・小林共著「新しい移住村を探る」　海外移住事業団「海外移住読本」上・下 5. 機関誌……年1回，1月発行，B5版　60ページ（内容）研究，報告，諸統計，先輩のたより，など。

4. 海外教育を推進するための学校行事等

全生徒に海外に対する理解を深め関心を高めさせるために，この種の講演会，映画会を実施するほか弁論大会，各種展示会やその他の学芸的行事の中にも，海外教育に関するものを折りこんで実施するように配慮する必要がある。

次にこれらのことを考えた一例を示せば次のとおりである。

学　校　行　事　等

月	行事名	時間数 換算時間	時間数 実時間	種別	ねらい	参加学年	主な内容	運営担当者	他の教育活動との関連その他
5	海外講演会	2	2	芸	1. 海外事情についての正しい知識を身につけ進んで関心を持たせる。 2. 良く聞く態度を養うとともに一般教養を高める。 3. 国際協力の必要性連帯性を	全	○海外移住の先輩又は適当な講師による海外講演 ○諸外国の自然，産業，経済，社会や文化について ○海外における日本人の活躍 ・活躍の現状および今日までの経過 ・将来の見通しおよ	行事係 教務係 海外クラブ顧問 農業クラブ顧問	・特別教育活動（クラブ，HR） ・関係教科　社会科（全） ・生徒会 ・農業クラブ ・家庭クラブ ・講演関係大地図 ・海外移住関係資料展示

					養う。		び吾々の責任		
9	海外映画会	2	2	芸	1. 世界連邦に貢献しようとする志気を養う。 2. ラテン・アメリカについての理解を深め，海外情勢に対する積極的な態度を養う。 3. 映画鑑賞の態度を養う。	全	○南アメリカの自然 ○ブラジルの生い立ちと素顔 ○ブラジルを動かす農業と主な作物 ○ブラジルの社会と文化 ○南アメリカの政治経済 ○映画フィルム名 希望の国ブラジル アンデスを越えて ブラジルの日本人 アマゾンは招く	行事係 教務係 海外クラブ顧問 農業クラブ顧問	・特別教育活動（クラブ，HR） ・関係教科　社会科(全) ・農業クラブ ・ ・海外移住関係団体 ・海外移住関係資料展示
11	学校祭（文化祭・農業祭）（海外移住展示会）	18	12	芸	1. 生徒の自主的研究の伸張を図る。 2. 協力と責任の態度を養う。 3. 展示物から海外事情について正しい理解と深い関心を持たせる。	全	○各クラブの展示発表会 ○品評会 ○バザー ○食堂 ○海外移住展示会 ○海外移住相談所 ○映画会（海外移住に関する） ○海外移住関係パンフレット配布	行事係 教務係 海外クラブ顧問 生徒会係 農業クラブ顧問	・特別教育活動（クラブ，HR） ・関係教科　全教科 ・生徒会 ・農業クラブ ・家庭クラブ ・PTA，同窓会 ・海外移住関係団体 ・海外移住関係資料展示

編集委員（敬称略）

教育委員会指導主事	杉山　保	小柳恭郎	杉山幸彦
高等学校教諭	大輪　誠	笠原道夫	藤沢宏吉
	仁木　稠	渡辺　潔	夏野盛吉
	大垣淳司	大橋　宏	高橋和夫
	佐藤甲子雄	森　真厚	岸　宏
	中島康彦	中川金作	増山志知
	薄井　繁	大島　孝	亀井　功
	小野忠之	都野文栄	酒井亮衛
	新井　聚		

編　集　後　記

○　顧みれば高校における海外教育は，研究グループを中心に生徒の自主的活動にまかされていたが，指導の資料に欠けていた為，殆んど組織的運営が行なわれていなかった憾みがある。

○　昭和37年９月海外協会は，県および教育委員会並びに宇都宮大学の関係者と協議の結果，「海外移住読本」の編集に着手することを申し合せたが，これが契機となって当時の海外協会連合会がこれを取り上げ，移住読本の上巻を完成したのである。

○　然しながら現実の問題として移住読本は，高校における教材の一部ではあるが，教育の課程において系統的且つ組織的指導資料の必要が痛感されたのである。

○　そこで協会は38年２月に教育委員会並びに指定高校と協議の末に，高校における教育の課程において普遍的にしかも偏向に陥いらないよう，適正な指導を行なうために必要な「海外教育の指導手引書」を編集することを決め，爾来十数回の編集会議において真剣な討議を重ね一応の成案をまとめることが出来たのである。

○　なおここで附言しておきたいことは，本書においては海外教育と呼称しているが，所謂通常使用されている海外移住教育には少からず問題があったのである。過去においても何々教育ということで偏向教育が行なわれ，教育的には少くとも適正妥当を欠いた憾みがあった。

○　従ってここで取りあげた海外教育は，あくまで青少年に対する海外思想の普及によって国際理解を深め，海外発展の素地を培うことが目的であって，決して一般高校教育と背反するものでないと考える。

○　編集の過程にあっては深更まで討議がつづいたこともあって，終始先生方の熱心な態度には全く敬服のほかはなかった。出来上ったものは無論完全なものとはいえないが，一応海外教育のレールが敷かれたことは今後の進展に大きな期待がもたれるものと信じている。

○　本書刊行の思い出と感謝の意を含めて，終始御尽力下さった県開拓課，教育委員会指導課並びに関係高校の各位にあらためて深い感謝と敬意をささげます。

昭和39年10月

栃木県海外協会　斎　藤　洋　記す

Ⅱ　海外教育研究会資料

主　催　栃木県教育委員会

　　栃木県海外協会

会　場　栃木県立真岡農業高等学校

(昭和40年2月2日)

海外教育研究会日程

1. 日　時　昭和40年2月2日　AM 9.00～PM 15.30
2. 会　場　栃木県立真岡農業高等学校
3. 日　程

9.30～ 9.40	受　付	
9.40～ 9.50	オリエンテーション	
9.50～10.40	研究授業参観	地　理　A　藤沢宏吉教諭 ホームルーム　荒井豊教諭
10.50～11.40	研究授業参観	世界史A　稲見芳勝教諭 農業経営　菊地重雄教諭
11.40～12.40	昼食	
	（海外移住研究クラブ活動ならびに展示室参観）	
12.50～13.20	主催者あいさつ　教諭稲川誠	
13.20～14.00	海外教育指導手びき書作成の趣旨と活用法について 栃木県教育委員会指導課 産業教育係長　杉山保先生	
14.00～14.10	休　憩	
14.10～14.40	海外教育指導手びき書活用の実際について 真岡農業高等学校教諭　藤　沢　宏　吉	
14.40～15.10	研究協議	
15.10～15.30	文部省初等中等教育局中等教育課 教科調査官　榊　原　康　男先生	

社会科（地理A）学習指導案　　指導者 藤沢宏吉

日時	昭和40年2月2日　第2時限	場所	機1B教室	クラス	機械科　1年B組
単元	交通・商業の都市の形成（12時間）			教科書	高等学校新地理　帝国書院
小単元	日本の貿易（3時限）				

単元の目標

1. 日本の貿易の発展過程を理解させる。
2. 日本経済の発展にともない，貿易の構造が変化してきていることを理解させる。
3. 日本経済にとって貿易が必要であることを理解させるとともに，その問題点と対策について考えさせる。

指導計画

	実施月日	時数	学習事項	学習形態
時間配当と本時の位置	1月28日	1	1. 日本貿易の歩み	講義式
	2月1日	1	2. 日本貿易の特質とその現状	講義，問答式併用
	2月2日	1	3. 日本貿易の課題	講義，問答式併用
本時授業の進め方	1. 生徒の実態を考慮し，その理解を助けるためにできるだけ資料を多く活用して平易に説明する。 2. 既学習事項を生かすようにして，貿易上の問題点を認識させる。			

題目　日本貿易の課題

本時の目標

1. 国民生活の水準を向上させるために貿易は不可欠の条件であることを理解させる。
2. 日本貿易の諸問題を認識させる。
3. 日本貿易の発展に寄与する海外移住者の役割りを認識させ，海外移住の意義を理解させる。

		学習要項	学習活動	時間	指導上の留意点	準備と資料	評価
学習過程	導入	本時の学習内容と目標の指示	前時と関連させながら本時の学習目標を説明する。	3分	前時とのつながりを持たせながら，本時の目標をはっきりつかませる。		本時の学習に対しての関心が高まってきたかについて観察する。
	展開	1. 日本経済と貿易依存度	1. 国民所得を増大させ生活水準の向上を図るためにはどうしたらよいかについて発表させる。 2. 発表をまとめながら貿易依存度について説明し貿易の必要性を理解させる。	5分 5分	○全体を通して，できるだけ平易，簡潔に説明するように工夫する。 ○統計資料や生徒の生活経験を生かしながら，貿易の必要性を説明する。	課題の提出 資料 「日本の鉱産物の生産と輸入の割合」 「輸入原料における中国およびアメリカへの依存率」	課題の実施状況について調査しそれを評価する。 貿易の必要性について理解できたか確認する。
		2. 日本貿易の諸問題	1. 日本貿易の諸問題について認識を深めさせるため具体的な事例をあげて説明する ○市場の喪失 ○繊維製品の輸出不振 ○対日輸入制限 ○貿易の自由化	15分	○貿易に対する関心を高めさせその問題について認識を深めさせる。 ○貿易外収支についてもふれる。	「輸出入の相手国の変遷」 「輸出入品目の変遷」	日本の貿易の問題点とその振興策について認識できたか確認する。
		3. 輸出促進対策	1. 国際収支の改善，貿易の振興策について説明する。 ○輸出金融対策 ○貿易外収支の改善 ・海外移住者の功績 ・海運収入	15分	◎低開発国に対する援助はその国の経済発展に寄与するとともに日本貿易の伸長につながるものであることを理解させる。 ◎海外移住は移住者個人の問題であるばかりでなく，日本貿易の発展に寄与していることを理解させる。	「ブラジルの貿易」 「海外移住の経済的効果」	
	終結	まとめと次時の予告	本時の学習内容をまとめ，次時の予告をする。	5分	○学習の要点を適切に整理する。 ○次時の予告と課題の提出が時間内に伝達できるよう配慮する。	○課題を準備する	

備考

(1) 生徒数58名……（全員就職希望）

(2) 生徒の学習態度

学習に対し興味をもち，態度も良好である。しかし問題を深く掘り下げようとする積極的な意欲や発表力は乏しい。

社会科（地理Ａ）学習指導年間計画表

註（○印＝教科としての一般留意事項
◎印＝海外教育に関連のある留意事項）

単元	指導項目	配当時間	指導目標	指導上の留意事項
第一章 地図	1. 地理的視野の拡大と地図の発達	1	○社会の進歩にともなって地理的視野や地図が発達したことを理解させる。	○日本人の世界観の発達やヨーロッパにおける世界知識の拡大についてふれる。
	2. 地図の種類と用途	2	○地図の種類と用途を理解させる。	○地図はそれぞれ長短があり，利用法によって異なる地図を用いることを理解させる。
	3. 読図，作図と野外調査	1	○読図，作図の技能を身につけさせる。	○郷土の地形図などを利用して地図の基本的要素を正しく理解させる。
第二章 環境としての自然	1. 自然環境と社会環境	1	○自然環境と社会環境の関連を理解させる。	○生活環境としての自然環境と社会環境を関連させて理解させる。
	2. 陸地と海洋	1	○水陸の分布と，それにともなう各種の地形や現象を理解させる。	
	3. 環境としての地形	3	○地形の種類形態とその分布を理解させる。	○スライドを活用して地形の種類と分布を知らせ人間生活との関連を理解させる。
	4. 気候と植生	5	○各気候区の特徴と分布ならびに成因を理解させる。	○人間生活と気候の関連を理解させる。 ◎特に熱帯気候について誤った認識を改めさせる。 ◎熱帯から亜熱帯にかけて分布するラテライト土壌地域に介在して良質なテラロッサのあることを理解させる。
	5. 日本の自然環境の特色	1	○わが国の地形，気候の特色を理解させる。	○世界の他地域と関連させながら日本の自然環境の特色を理解させる。
第三章 文化と人口	1. 文化と民衆	2	○人種と民族の相違，民族と言語，宗教の関係を理解させる。	○人種，民族の分布を中心にして，その相違を理解させ，こんにちの民族問題についてもふれる。 ◎南米において人種差別が行なわれていない理由を理解させる。 ◎言語，宗教の相違は国家の形成に関連をもち，問題となることが多い。過去にみられた日本人の偏見的な優越感をすて，互の立場を尊重しようとする態度を養う。
	2. 人口分布と構成	3	○人類は地球上に偏在しそれが地域の産業や生活と関連していることを理解させる。 ○世界の人口増加や構成は地域的に不均等であることを理解させる。	◎中南米，アフリカ等の人口稀薄地域の後進性と将来性を理解させ，その地域の開発発展のため稠密地域からの移住の必要性を認識させる。 ○世界の（先進国，低開発国）人口の増減と人口構成の特徴を理解させる。 ◎華僑，インド人，アラビア人，ユダヤ人，ヨーロッパ人等の国外移住にふれ日本人の海外発展と比較させる。

	3. 人口問題	2	○人口問題に対するいろいろな考え方を理解させる。 ○日本の人口増加と構成ならびにその問題を理解させる。 ◎日本人の海外移住の推移とその実情を知らせる。	○マルサスの人口論を紹介し，批判させる。 ○人口の都市集中の激化にともなう問題とその対策について考えさせる。 ◎求人難の時代に海外発展の必要性が強調されるのは何故かということについて考えさせる。 ◎日本人の海外発展の歴史について簡単にふれ，こんにちの移住の在り方とその必要性を認識させる。
第四章 生物資源の活用	1. 世界の農牧業と農業地域	16	○経済の発達段階に対応して農業が進歩し，地域分化が進められてきたことを理解させる。 ○資本主義の未発達地域の農業型態を理解させる。 ○アジアにおける稲作農業と畑作農業について理解させる。 ○ヨーロッパ各地の農業について理解させる。 ○新大陸における各種の企業的農業について理解させる。 ○プランテーション農業	○資本主義の発達と農牧業の地域分化の関連を理解させる。 ○焼畑，遊牧，オアシス農業の分布とその特色ならびにそれと自然環境との関連を理解させる。 ◎未発達地域の近代化について人間の自然克服の姿を理解させる。 （東南アジア，中南米等で活躍する日本人の状況を引用して——。） ○アジア経済の後進性，停滞性を農業の面から明らかにさせる。 ◎後進地域開発援助計画の一環としてインド，パキスタン，セイロンなどで稲作技術の指導に当る日本人技術者の活躍状況にふれ，日本農業の海外進出の一例として認識させる。 ○気候の分布と関連させながら地中海式農業，混合農業，酪農業の地域分化とその特色を理解させる。 ○土地利用の面から，各国（デンマーク オランダ，スイス，ドイツ）の農業を考察し，日本農業と比較させ，日本農業の改善策について考えさせる。 ◎イタリアの農業と移住者送出の関係を理解させる（イタリア経済の発展と移住者の関係は「貿易」の項でふれる） ○新大陸における企業的農業型態，分布とその成因ならびに特質を理解させる。 ◎合衆国で（カルフォルニア，ハワイなど）野菜，果樹，米などを栽培する日本人の動向を知らせながら企業的農業の特質を理解させる。 ◎南米各国で活躍する日本人

			の成立過程とその特色を理解させる。	・ブラジル サンパウロ周辺　コーヒー栽培 近郊農業 アマゾン流域　コショウ栽培 ジュート栽培 ・アルゼンチン ブエノスアイレス周辺…花卉，果樹栽培 ・その他　ペルー，ボリビア，・パラグアイなどで活躍する日本人の動向を知らせながら，プランテーションを理解させる。また，日本人の功績と中南米地域の将来性についての認識を深めさせる。
			○社会主義諸国における農業と農業経営の特質を理解させる。	○社会主義諸国における集団農業の経営方式を知らせ，その長短を考えさせる。
	2.　林産資源の分布と開発	3	○各森林帯の特色と林業成立の条件ならびに世界の林業を理解させる。	○森林資源の重要性を理解させ，森林を愛護しようとする態度を養う。 ◎アマゾン開発の一環として熱帯林の利用状況を説明し，熱帯林の特性を理解させる。
	3.　水産業と漁場	3	○大漁場の立地条件と世界主要国の水産業について理解させる。 ○日本の水産業の特質を理解させる。	◎水産資源開発のため世界に伸びる日本の水産業の実情を説明し，零細な沿岸漁業との較差を理解させながら日本の水産業の特質を把握させる。また，日本の水産技術が低開発国の開発に貢献している事を知らせる。（ブラジル太洋漁業など）
第五章　鉱工業	1.　動力資源と動力問題	7	○世界の石炭生産とその需給関係を理解させる。 ○石油の分布とその開発利用について理解させる。 ○水力，火力発電の特質と各国の電力構成について理解させる。 ○日本の動力資源の生産と動力問題を理解させる。	○石炭の歴史的役割を理解させるとともにその現状を把握させる。 ◎動力，地下資源と工業の発達との関連を理解させる。事例として中南米諸国の石炭不足を説明する。 ○石油資源をめぐる国際紛争についてふれる。 ◎ベネゼラの油田とともにブラジル東部アマゾン流域と，アルゼンチンの油田開発について知らせる。 ○日本における電源開発の意義を理解させる。
				○アラビア，インドネシアに進出した日本の石油資本と外国資本の問題を認識させる。

第六章 国土の開発と保全	1. 産鉱資源の分布と開発	4	○世界の鉄鉱資源の分布と開発状況について理解させる。	◎日本の企業が，ブラジル，インド，マレーシアなどに進出していることを知らせ，その地域の開発に寄与していることを知らせる。
			○非鉄金属資源の分布と開発利用状況について理解させる。	◎ボーキサイトではインドネシア，マレーシア，錫ではマレーシア，ボリビア，ニッケルではニューカレドニアなどに日本資本が進出していることを知らせる。
			○日本の鉱産資源の開発と需給状況について理解させる。	○日本の資源の不足を補うとともに低開発国の開発，発展を図るため日本の企業が上記地域の開発にあたっていることを知らせる。
	2. 近代工業と工業地域	10	○工業発展の過程について理解させる。	○地理的観点から，工業発展の過程を理解させる。
			○世界の主要工業の種類と分布ならびに立地条件について理解させる。	○立地条件によって工業の種類がかわることを理解させる。
			○先進諸国と低開発諸国の工業地域について理解させる。	○先進工業地域と後進工業地域の性格の違いを明らかにさせる。 ◎先進諸国が低開発国に果すべき使命を自覚させ，日本も低開発国の工業発展に積極的に援助，協力する義務のあることを理解させる。
	3. 日本の工業		○日本の工業と工業地域について理解させる。	○日本工業の発展と構成の特色を理解させる。 ◎日本の工業が世界に発展している事例をとりあげ，日本の工業に対する認識を深めさせる。 ○多くの問題を持つ日本の中小企業も，(軽企業)低開発諸国の工業発展に寄与していることを知らせる。
	4. 資源の計画的利用と防災	1	○国土の開発と保全について具体的事項（資源，災害)を考察させ，関心を高めさせる。	○資源の完全利用は，計画的保全にあることを理解させる。
	5. 総合開発地域	3	○世界ならびに日本の総合開発の実状を認識させる。	○先進諸国が低開発国の向上と発展のため，その地域の総合開発に努力している点にふれるとともに，日本もその開発に協力している点を認識させる。 （インド，タイ，ビルマ，ベトナムのダム建設，ラオスの上水道，アジアハイウエー等) ◎米ソを中心とする東西の援助競争にもふれたい。

第七章　交通商業と都市の形成	1.　近代交通と交通地域	2	○各種交通機関の特色を理解し，経済の発展において交通の役割りを認識させる。 ○日本の交通機関の特色と輸送問題を理解させる。	◎交通・通信の発達によって世界の時間的距離が短縮されており，今迄のような欧米は遠いという認識を改めさせる。 ◎南米では道路，鉄道より航空路が発達していることを知らせ，交通の上からも南米の広さを理解させる。
	2.　商業と貿易	3	○国際貿易の成立する条件と意義について理解させ，各国貿易構造の特色を認識させる。	○産業構造の発展は貿易構造にどのような影響を与えてきたかを考えさせる。
	3.　日本の貿易	3	○日本貿易の歩みと現状を理解させる。 ○日本経済にとり，貿易のもつ意義を理解させる。	○工業の発展は，貿易構造をどのように変化させてきたかを理解させる。 ○低開発国に対する援助はその国の経済発展に寄与するとともに，日本の貿易の伸長につながるものであることを理解させる。 ◎海外移住は，移住者個人の問題であるばかりでなく，日本貿易の発展に寄与していることを理解させる。
	4.　世界および日本の都市	4	○都市の発達とその機能や形態の特色について理解させる。 ○都市の地域構造の都市問題について理解を深め，また都市計画の重要性について関心を高める。	○都市の発達を日本や世界の歴史と関連して理解させる。 ◎都市計画については代表的なブラジリアを取り上げ，その意義を考えさせる。
第八章　国家の国際関係	1.　国　家	1	○国家という概念を具体的に把握させる。	○国土，国境に関する諸問題について例をあげ，具体的に理解させる。 ○民族意識が高まり，戦後独立国が多くなってきたこと，それらの新興国が今後発展するために日本の果すべき使命を自覚させる。
	2.　世界の国家と国家群	5	○現代の世界における国家群形成への動向に関心を向けさせ，かつこれを地理的立場から理解させる。	○西ヨーロッパ諸国では西欧各国経済の統合の傾向を考察させる。 ◎ラテンアメリカ諸国の多様性については，開発期における特色や投資国との関係を考えさせる。 ○社会主義諸国の世界経済に占める役割について理解させる。 ◎アジア，アフリカ諸国の政治的独立とその国際的影響力について理解させる。

	3. 国際関係と日本		○国際憲章にみられる全人類の平和と福祉について日本の立場と使命を自覚させる。	◎今日の国際問題は東西間の問題より南北（先進国と低開発国）の問題に重点があるといわれていることを認識させ先進国民としての誇りとその使命を自覚させ，積極的に世界の発展に寄与しようとする態度を身につけさせる。

ホームルーム指導案

指導者　荒井　豊

日時	昭和40年2月2日(火)　第2時限	場所	11番教室	クラス	農業科　2年B組
題目	親と子				

設定の理由

生徒達の段階は単純な愛情でつながるのには大きくなり過ぎ，そうかといって親を親としてみるのには幼なすぎる。従って，親子の問題を中心に家庭生活を見た場合，最も多くの問題をはらんでいる時といえよう。即ち，ひとつ間違えば愛情そのものにまでひびがはいりかねない。このようななかにあって，望ましい家庭生活のあり方を話し合い問題の解決法を考えることにより，彼等の人格形成の場としての家庭生活をよりよいものにして望ましい近代的な親と子の関係を作り出し度いと考え，この題目を設定した。

指導計画

事前準備

次の資料を準備する

- 生徒から　アンケート　親へ望むこと……集計，表作成……（生徒）　資料Ⅰ
- 　　作文　私の父，私の母……録音……（生徒）　〃　Ⅱ
- 父母から　アンケート　子へ望むこと……集計，表作成……（生徒）　〃　Ⅰ
- 　　吾子を育てて……（教師）　〃　Ⅳ
- 対談　アメリカの家庭生活（国際農友会派遣実習生金田英雄氏）…録音……（生徒）　〃　Ⅲ
- 調査　父母に対する態度の分析……（教師）　〃　Ⅴ
- 青年の心理　理想の家庭（山下俊郎氏）から要旨プリント……（教師）　〃　Ⅵ

本時の位置

望ましい生き方に関するもの（第3学期4時間）

1. 新しい年の始めに
2. 親と子……本時
3. 親切と勇気
4. 私の人生観

取扱い上の留意事項

- 本時の問題は生徒達だけの話し合いで解決するものではない。
  事後の問題にも十分意を用い，家庭との協力で目的を達成していきたい。
- 比較資料としてアメリカの家庭生活をとりあげ海外への認識も深めたい。

目標

1. 愛情と信頼によって暖く結ばれた家族が，自主と協力によって，形づくるものが理想の家庭であることを知り，望ましい家族の一員となろうとする態度を養う。
2. 海外に眼をひらき広い視野に立って，親と子の関係を理解し，近代的な家族関係を自らの力で作り出すことのできる人間になろうとする意識を高める。

本時の指導

学習課程

	予想される活動	時間	指導上の留意点	資料	評価
導	本時のすすめ方について話し合い，ねらいをはっきりと把握する。	5	和やかな雰囲気と発言への意欲が醸成されるようににとめる。		○活動のねらいを明確につかんだか。
展開 入	○資料Ⅰ，Ⅱを聞きながら 各自，家庭にある問題点をまとめ，原因を考える ○資料Ⅲを聞きながら アメリカの家庭との比較の上に立って，われわれの家庭にある問題点を更にはっきりさせ (1)この解決に必要なものは何か (2)望ましい家庭はどうあるべきか等，話し合いの意見をまとめる。	20	○要点をメモするなどして資料が話し合いに生きてくるように留意させる。 ○アメリカにおいても，家づくりの問題は大きく取り上げられているか，アメリカのいき方必ずしも十全でないことを助言する。	資料Ⅰ 資料Ⅱ 資料Ⅲ	○資料から問題が捉えられ，意見がまとめられたか。
展開	○話し合い (1)問題点は何か （表面にあらわれる事例は多岐に亘るが焦点をしぼると） (2)その原因は (3)解決に必要なことは (4)望ましい家庭の在り方は	20	○話し合いの内容がねらいからはずれないように留意させる。 発言が特定の者に片寄らないように留意する。		○ねらいに沿った話し合いがなされたか。 ○得られた結果な妥当であったか。
終結	○望ましい家庭についてまとめる。 (1)調査（資料Ⅴ）を発表する。 (2)資料Ⅳにふれる（父母の愛） (3)プリント（資料Ⅵ）を配布する。 （父母へはたらきかけの意を含めて） 家庭での話し合いを課題とする。	5	話し合いが生徒だけに止まらぬように 記録に本時の大要をプリントさせ配布する。	資料Ⅳ 資料Ⅴ 資料Ⅵ	○興味をもって活発な活動が展開されたか。

備考

今後の問題　ホームルームの結果をもとに各自家庭で話し合いを持つように指導し，その様子を報告させる。
問題のある者については個人的に話し合いをする。

クラスの実態　比較的家庭環境に恵まれ，穏健な考え方の持主が多い。話し合いもなかなか活発であるが，発言が何人かの者に固定されてしまう傾向がある。

農業科2年ホームルーム年間指導計画

	題　　目	ね　ら　い	海外教育に関連のある事項
第一学期	ホームルームの組織と計画	全員が運営に参加し一致協力のホームルームをつくる。	
	私の悩み	しっかりした判断と覚悟の上に立って人生に処していく態度を養う。	
	生　徒　会	生徒会の在り方を認識し自治と責任を自覚させる。	
	自営者を目指して	前途に希望と計画を持たせる。	
	努力と能率	計画性のある努力が物事成功の鍵であることを理解させる。	
	現代の愛校心	良い校風を樹立しようとする意欲を高める。	愛校心，愛国心について外国のそれと比較し，正しいあり方を考えさせる。
	健康診断の結果と処理	自己の体位を知り学校病についての理解を深める。	
	自由と責任	真の自由を知り，責任ある生活を送ろうとする態度を養う。	イギリスのパブリックスクールにおける学生々活を知らせ自由について考えさせる。
	友　　情	現在の友，将来の友をよりよいものとするための反省と心構えを持たせる。	
	オリンピックを控えて	外国人を迎え入れる心構え，公徳心を高める。	欧米人の公徳心とオリンピックの意義を認識させる。
	夏休みの生活設計	自主的，計画的な夏休みが送れるようにする。	
第二学期	新学期を迎えて	先学期を反省し今学期への心構えをつくる。	
	校則は自由を束縛しているか	校則の必要性を知りこれを生かして各自の生活を向上させようとする態度をつくる。	
	高校生のエチケット	日常生活に必要な礼儀作法について考え誠実な態度と心得をつくる。	国際人としての礼儀作法を身につけさせたい。
	交通道徳	諸外国に比し劣っていることを知り，進んで守ろうとする心構えを持たせる。	諸外国の交通道徳を認識させて日本人のあり方を考えさせる。
	スポーツと青年	心身の健康がスポーツによって培われることを知り，各自にふさわしいスポーツに精進する自覚を持たせる。	スポーツとイギリス人 イギリス人の人格形成とスポーツの関係について理解させる。
	学　校　祭 運　動　会	学校行事への積極的参加協力親和の心を高める。	
	修学旅行	望ましい修学旅行のあり方について理解を深め，公衆道徳を実践する心構えをつくる。	
	男女の交際	女性を正しく理解し正い男女のあり方を学ばせる。	欧米人の男女交際と比較検討させ，正しい男女交際のあり方を考えさせる。
	劣　等　感	劣等感が万人のものであることを知り，これを克服し有意義な人生を送ろうとする意欲を持たせる。	欧米崇拝思想について反省させる。
	冬休みを迎えて	自覚と反省の上に立って計画的な冬休みが送れるようにする。	

	新らしい年の始めに	希望にもえて明るい生活を建設しようとする意欲を高める。	
	健康な生活	現状を反省し，健全な生活態度の形成につとめさせる。	アメリカにおける家庭生活の実態にふれ望ましい家族関係のあり方を考えさせる。
第	親　と　子	望ましい家庭生活を知り，望ましい家庭の一員になろうとする態度を養う。	
三	親切と勇気	考えを進んで実行に移し，住みよい社会をつくろうという意欲を持たせる。	
学	予餞会の計画	先輩との心の結びつきを深め感謝の気持を高める。	
期	私の人生観	夫々の人生観を確立し，有意義な毎日が送れるようにする。	
	私達のクラス	年間を反省し，長所を伸ばし，短所を矯める態度を培う。	
	いよいよ三年生	最上級生としての心構えを持たせる。	

資料Ⅴ　父母に対する態度の分析

調査票

氏　名

家族構成　父・母，祖父・祖母，兄（　　）人，姉（　　）人，弟（　　）人，妹（　　）人
他（　　）人

・次の（　）にあなたの家族（何人はいっても結構）を入れて，あなたの感じ思っていることをあらわす文として下さい。

① 私は(　　)と時々愉快に話をすることがあります。
② 困ったことがおきた時に私は(　　)に相談します。
③ 私は(　　)をえらいと思っています。
④ 私は(　　)の顔を見るのもいやなことがあります。
⑤ (　　)にしかられると，私はとてもこわいと思います。
⑥ (　　)はいつも(　　)ばかりかわいがって，私のことはかまってくれません。
⑦ 私は(　　)と気が合わないでこまります。
⑧ 悲しい時には私はよく(　　)のことを思い出して自分をなぐさめることがあります。
⑨ 何かほしいものがあるときには，私は(　　)に頼むことにしています。
⑩ (　　)は何でもよく知っていると思います。
⑪ (　　)に叱られるととてもしゃくにさわります。
⑫ (　　)の前では私はいつもびくびくしています。
⑬ (　　)はいつも(　　)のことばかりほめています。
⑭ 私は(　　)をやっつけてしまいたいと思うことがあります 。
⑮ 私は(　　)と話していても，おもしろいと思ったことがありません。
⑯ 私は困ったことがおきても(　　)には相談したことがありません。
⑰ 私は(　　)を軽べつしています。
⑱ 私は(　　)がいちばん好きです。
⑲ 私は(　　)にしかられてもそんなにこわくありません。
⑳ (　　)はいつも私ばかりかわいがってくれます。
㉑ 私は(　　)ととてもよく気が合います。
㉒ 私は(　　)がいなくても寂しいとは思いません。
㉓ 私は何かほしいものがあっても(　　)には頼みにくいのです。
㉔ (　　)は私が知っていることでも，知らないことが多いようです。
㉕ (　　)にはいやなところがちっともありません。
㉖ 私は(　　)の前ではどんなことをしても平気です。
㉗ (　　)はいつも私のことばかりほめてくれます。
㉘ 私は(　　)とけんかをすることはありません。

集計には次票を用い父母について記入してあるものを対象にした。
つ各項＋，－に従って１点，（　　）のあるものは２点として横の計を出し，父母夫々に対する親和から闘争までの好ましい，好ましくない態度とした。
接触度は＋，－に関係なく父母について記入されたものの数を集計し５段階にわけた。

集計票(例)

態　度		＋	＋	－	－	F	M
	親　和	1父母	8(　)	15	22(　)	＋1	＋1
	信　頼	2(　)	9父母	16(　)	23　父		＋1
	尊　敬	3　父	10	17(　)	24	＋1	
	嫌　悪	4(　)	11	18　父	25(父母)	－3	－2
	恐　怖	5　父	12	19　母	26(　)	＋1	－3
	嫉　妬	6	13	20	27		
	闘　争	7	14	21	28		
接　触　度		F 7(4)		M 5(3)			

結果は個人票として用いるものであるが，クラス員についてまとめたものを示すと次のようである。

態　度	父		母	
	好ましい	好ましくない	好ましい	好ましくない
親　和	27人	2人	31人	1人
信　頼	13	23	32	6
尊　敬	23	2	14	7
嫌　悪		6		3
恐　怖	11	13		26
嫉　妬	7	2	9	2
闘　争		1		

接触度	段　階					段　階				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
	12人	6	20	4	1	7人	10	17	9	

社会科（世界史A）学習指導案

指導者　稲見芳勝

日時	昭和10年2月2日(火)　第3時限	場所	機械科　2年A組教室
クラス	機械科　2年A組		
単元	第7章　民主主義の発達（19時間）	教科書名	世界史A　（好学社）
小単元	第1節　イギリス（4時間）		

単元の目標

1. イギリスの近代化が市民革命を経験しておしすすめられたことを理解させる。
2. 18世紀後半から産業革命が進行して，ヨーロッパで最も早く資本主義が発達し，世界経済の指導権を握った過程を理解させる。

指導計画

時間配当と本時の位置	第1節　イギリス A　清教徒革命……1時間 B　名誉革命……1 〃 C　産業革命 } ……1 〃 D　資本家と労働者 } E　世界の王座へ……1 〃（本時）
本時の授業の進め方	この部分は教科書の叙述がイギリス史の形で一貫されていて，必ずしも年代を追っていない，だから随所で世界的観点から年表により前後を対照し史実を補って生徒の理解を助けていきたい。

題目　世界の王座へ（イギリスの繁栄）

本時の目標

1. 産業革命後市民社会の指導的地位についた産業資本家が自由主義的政治改革を次々と実施していく過程を理解させる。
2. イギリス資本主義の急速な世界市場の開拓はビクトリア時代の繁栄をもたらしたが，そこには経済社会の近代化と内政の民主化が背景となっていることを理解させる。

		学習要項	学習活動	時間	指導上の留意点	資料	評価
学習過程	導入	本時の学習内容	○年表で本時で取り扱う時代を明らかにする。 ○産業革命によって産業資本家が成長して来たことを思い出させる。	5分	○年表の見方について	○教科書挿入年表Ⅱ	○既習事項をよく理解しているかどうか。
	展開	1. イギリスの諸改革	○イギリスの政治改革が産業資本家の利害によって左右され自由主義化されたことを考察させる (1)カトリック教徒解放 (2)選挙法改正 (3)穀物法廃止 (4)航海条令廃止 ○労働問題改善のための労働運動がどのように展開されていくかを理解させる。 (5)労働問題 チャーチスト運動 工場法制定	10	○改革の背景には七月革命ウィーン会議後の自由主義的風潮もあることにふれる。 ○労働運動の国際化の方向にもふれる。 （教科書 p.207）	○プリント 長時間労働と低賃金	○政治改革が産業資本家によって行なわれたことが理解出来たか。 ○労働問題がどのように改善されたかが理解されたか
		2. ビクトリア時代の繁栄	○全世界に植民地を所有したことがイギリスの繁栄の基礎になっていることを理解させる。 (1)世界の工場 (2)議会政治の発展 ・二大政党の対立 (3)植民地経営 ・インド帝国の成立 ・自治植民地	30	○自治植民地主義への転換はアメリカ植民地経営の失敗が教訓になって行なわれたことに注目させる。	○世界史地図 （吉川弘文館） ○プリント 世界の工場 ○教科書挿入年表Ⅱ	○ビクトリア時代の繁栄は海外市場の確保とイギリスの先進性によってもたらされたことが理解出来たか。
	終結	3. まとめと次時の予告	○本時の学習内容をまとめ，次時の予告をする。	5		○教科書挿入年表Ⅱ	

備考
1. 在籍48名　現在のところ殆んど就職を希望している。
2. 学習意欲はあるが，質問は殆んどない。

社会科（世界史A）学習指導年間計画表

註（○印＝教科としての一般留意事項
◎印＝海外教育に関連ある留意事項）

単元	指導項目	配当時間	指導目標	指導上の留意事項
	序　説	1	○世界史の意義，世界史学習の目的を認識させる。	○世界史の学習は考えて理解せねばならない教科であることを十分に強調する。
1. 文明のあけぼの	1. 人類と文化のおこり	1	○人類の進化 ○原始時代の社会と生活を理解させる。	○農耕生活の開始が社会生活発展の基礎となった点を注意させる。
	2. 文明の発生	2	○古代文明の源流と古代国家の特質を理解させる。	○四大文明発祥地の自然的条件の共通点に注目させる。 ◎フェニキアの地中海に植民活動を行なった自然条件に注意させる。
2. 東アジア文明圏の発展	1. 中国古典文明の発達	2	○古典文明の準備期たる春秋戦国時代の意義を把握させる。 ○秦朝の成立とその後の王朝との関連を理解させる。	○周の封建制と西洋のそれとの相違について留意させる。 ○生徒に読みにくい歴史用語や固有名詞を正確に覚えることを強調する。
	2. 東アジア文化圏の成立	2	○唐の国家型態と文化の内容を理解させる。 ○東亜文化圏が世界史に占める位置を把握させる。	◎南北朝の分裂後唐を中心に東アジアに国際社会の形成がなされたことに注意させる。 ◎唐代の広大な文化圏とその影響について留意させる。
	3. 東アジアの変化とモンゴル民族の移動	2	○唐末宋初の社会変動の意義を把握させる。 ○東アジアにおける遊牧民の役割について理解させる。	○科挙の意義を明らかにし，その役割に十分注意させる。 ◎モンゴル世界帝国が東西の交通，文化交流に果した役割について留意させる。
3. インド・イスラム世界の成立	1. インドとイランの文化	2	○仏教の成立とインド社会の特色を理解させる。 ○パルチア，ササン朝，イスラム文化の流れを把握させる。	○カスト制とインド社会の停滞性について留意させる。 ◎仏教の世界宗教としての性格について留意させる。
	2. イスラム世界の発展	1.5	○イスラム教の性格とその成立の背景を理解させる。 ○イスラム世界の急速な発展とその理由を考えさせる。	◎イスラム教とイスラム化された国々がどのような民族によって築かれ，その文化がどのようにして形成されたかを留意させたい。 ◎イスラム圏の拡大はアラビア人の生活圏の拡大であることに注意させる。
			○ポリスの発生，アジアの専制国家との相違を	◎B.C.8Cごろから地中海黒海沿岸に植民活動をしたギリシア人について留

4 ヨーロッパ文明の成立	1. ギリシア文明の流れ	3	考えポリスの本質を理解させる。 ○ヘレニズム世界の歴史的役割を理解させる。 ○ギリシヤの文化が近代思想学芸に与えた影響を認識させる。	意させる。 ○ギリシヤ民主政治と近代民主政治の相違に注意させる。 ◎ヘレニズム文化が東西文化の交流に果した役割について留意させる。
	2. ローマとキリスト教	2	○ローマが一都市国家から世界帝国にまで発展した原因を理解させる。 ○キリスト教がローマ帝国と結びついて世界宗教に発展した理由を理解させる。	○ローマ史の学習では特に年表・地図の活用を十分に行なわせたい。 ◎キリスト教の世界的発展を促した社会的背景に注意させる。
	3. ヨーロッパの誕生	2	○ゲルマン民族の移動の原因およびその後のヨーロッパに及ぼした事情を理解させる。	◎ゲルマン民族の移動原因に留意させる。特に内的要因について留意させたい。 ○クランク王国の果した歴史的意義には十分留意させたい。
	4. 中世の社会	2	○中世国家の社会構成の特質を理解させる。 ○十字軍の影響について理解させる。	○中世封建社会の特色を日本の封建社会の特色と比較させ理解を助けたい ◎ヨーロッパ人の海外進出の第一歩として十字軍を留意させたい。
	5. 中世の文化	1	○中世文化が教会中心の文化であることを認識させる。	○西欧中世の文化と古典文化，キリスト教文化，ゲルマン文化，ビザンチン文化との密接不可分的関係に留意させる。
5 近代ヨーロッパの開幕	1. ヨーロッパの変動	1	○遠隔地貿易の発達が新興市民階級の成長を促す反面，古い権威が没落していく過程を理解させる。	○十字軍の影響と中央集権国家形成との関係に留意させる。
	2. 地理上の発見	1	○ポルトガル・スペインが地理上発見の最初の担当者となった理由およびそれらの国々の活動の全容を理解させる。 ○地理上発展がヨーロッパ世界に及ぼした影響を理解させる。	◎地理上の発見と貿易の密接不可分的な関係に留意させる。 ◎地理上の発見が西欧資本主義の成立を促進させたことに留意させる。
	3. ルネサンス	2.5	○ルネサンスが中世のキリスト教的世界観から脱して，実現の人間性の価値とその実現を目	○ルネサンスの偉業を絶讃するの余り中世の文化を不当に暗黒視するようなことのないよう注意させる。

			さすものであった点を理解させる。 ○ヒューマニズムと科学精神や近代思想の発達との関連性を考えさせる。	○ルネサンス期における美術や文芸作品には写真や幻燈を通して具体的に理解させたい。
	4. 宗教改革	1.5	○宗教改革の原因・経過・影響について理解させる。 ○宗教改革，地理上の発見，ルネサンスが三者一体をなすことを理解させる。	○単に宗教上の問題としてのみ扱わないで同時に反封建的な動きのよりどころとしてその意義を十分にみきわめるように注意させる。
6 ヨーロッパとアジアの専制国家	1. 絶対主義国家の発達	2	○各国の諸事情に即応して絶対主義の成立と発展を理解させる。 ○絶対主義の特徴について理解させる。	○絶対主義時代が資本主義の発達という視野から，どういう意義をもつか留意させたい。
	2. ヨーロッパ諸国の海外発展	2	○植民地獲得競争の過程での列強の衝突は，それが絶対主義の経済的基盤として重要であった点を理解させる。 ○世界商業の覇権がどのような事情のもとに移行するか理解させる。 ○イギリスの最終的制覇の原因を考えさせる。	◎ポルトガル，スペイン，オランダ，フランス，イギリス各国の植民活動の性格に留意し，世界商業の覇権の推移を全般的問題として考えさせたい。 ◎イギリスの勝利はその先進性にあることを第7章と結びつけて学習させる。 ◎イギリス人とフランス人の北米移民に対する考え方の違いに留意させる。
	3. オスマン・トルコとムガール帝国	1	○チムール帝国・オスマントルコ帝国の国家組織を理解させる。	○イスラム系であることに留意させ，イスラム圏の発達に注目させたい。
	4. 明・清時代の東アジア		○明・清にみられる東洋専制国家の特質を理解させる。 ○清朝がやがてロシア，その他の西欧勢力と接触していく過程を考えさせる。	○ヨーロッパ勢力の東進にも拘らず東アジアがその力を充実させ進行をくいとめたことを留意させたい。 ◎清朝の社会の欠陥を考えさせ，ヨーロッパ人の進出の導入としたい。
	1. イギリス	4	◎イギリスの近代化が革命を通じて進行していくことを理解させる。 ○18世紀に産業革命が進行し，世界経済の指導権を握った経過を理解させる。	◎イギリスの繁栄は経済社会の近代化と内政の民主化が背景となっていることに留意させる。 ◎イギリス自由主義の発展は，植民地政策の変化を呼びおこしたことに留意させる。 ◎産業革命はヨーロッパ人による世界支

				配であったことにも留意させる。
	2. アメリカ	3	○アメリカの独立の意義を理解させる。 ○19世紀後半の南北戦争後のアメリカの発展を理解させる。	◎合衆国の基礎は自由を求めて新大陸に移住したイギリスの農業移住者であることを留意させる。 ◎合衆国の独立がイギリスをして東洋支配に向けさせたことに留意させる。
7 民主主義の発達	3. フランス	3	○フランス革命は世界史の上に近代社会を確立した一画期をつくったことを理解させる。 ○ナポレオンの大陸支配がフランス革命の成果を拡大するものであった点を理解させる。 ○ナポレオン戦争の性格が英仏の資本主義の発達との競争を背景に展開されたことを理解させる。	○フランス革命は，イギリス清教徒革命アメリカ独立戦争と関連させる。 ◎ナポレオンが自国の利己的愛国主義を追求するに及んで諸国民の総反撃をうけて敗れた点に留意させる。 ◎ウィーン会議は平和のための国際会議であったが保守反動であったためその体制はまもなく崩壊し，自由主義が勝利をおさめた世界史的動向の本質に十分留意させる。
	4. イタリア・ドイツ・ロシア	3	○マッチニ，ガブール，ガルバジルらの3人の統一運動の展開と外交政策の成功などによってイタリア王国が成立する過程を理解させる。 ○ドイツ統一の特殊性を理解させる。 ○ロシアの反動化と革命思想の成長を理解させる。	◎先進資本主義列強に立遅れたドイツ，イタリア，ロシア等の後進資本主義国家の特殊的立場に留意させる。
	5. 市民社会とその文化	3	○政治・社会・経済情勢の急激な発達が文化の動向に反映していることを理解させる。 ○物質文明の高度な発達が人間の生活思想に及ぼした影響を考えさせる。 ○国際協力の発展を具体的に理解させる。	○自然科学の発達と資本主義発展との関係に留意する。 ◎中でも交通通信機関の画期的な発達が世界を一体のものに結合させていくことに留意させる。 ◎文化面では一応国際協力に達した列強も，政治問題になるとしばしば紛争をかもしだした点に留意させる。
	6. 19世紀のアジア	3	○ヨーロッパ産業資本主義の進出に対してインド，中国，日本はどのように対応したかを理	◎19世紀イギリスのインド支配が資本主義の典型的植民地政策であったことを留意させる。

			解させる。 ○更にこれらの動きの中でアジアがめざめていく過程を理解させる。	◎日本近代化の方向は，ヨーロッパの植民地的支配からの脱出にあったことに留意させる。
8 帝国主義と世界大戦	1. 帝国主義と第一次世界大戦	3	○帝国主義の概念を理解させる。 ○帝国主義の生み出した複雑な国際政治や経済の矛盾によって第一次世界大戦が展開されたことを理解させる。 ○ロシア革命の成功とソ連邦の成立を第1次世界大戦の過程を通して理解させる。	◎植民地主義と帝国主義との観点に留意させる。 ◎一つ一つの事件を国際的つながりや経済政策の目的と常に考えつつとりあげていくことに留意させる。 ◎ベルサイユ体制は世界平和を目標としていながら，常に資本主義諸国の利害においてゆがめられたことに留意させる。
	2. 民族主義，民主主義の進展	3	○第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国家の地位変動を把握させる。 ○植民地，従属国における民族意識の成長を捉えさせる。	◎この時期は世界史上最も民主主義が高揚された時期であることに留意させる。 ◎現代のアジア，アフリカのナショナリズムの源泉がこの時代の民族国家に端を発するものである点に留意させる。
	3. 全体主義と第二次世界大戦	3	○第二次世界大戦が民主主義と全体主義の対立に発したことを理解させる。 ○戦後誕生した国際連合について目的・活動などを中心にその役割を理解させる。	◎日本が全体主義の立場に立って戦い，敗れたことは大きな悲劇であったが，ここに民主主義の一段の前進があったことに留意させる。 ◎国連には欠陥は存在するが，世界はこの組織によって平和を守ろうとしていることを理解させ，国連尊重の精神を養うように十分留意させる。
9 現代の世界	1. 二つの世界の対立	2	○二つの世界が形成されるに至った事情を理解させる。 ○西欧と東欧を中心とする二つの世界政局がどのように推移したかを概観させる。 ○われわれ日本人の立場から，わが国の動向は世界の中にどのような地歩を占めるかを考えさせる。	◎戦後処理問題によって米ソの対立が生れたが，その対立については冷静な歴史的理解と公平な批判的態度を失わぬよう指導する。 ◎相互不信は，互に集団防衛機構を作らせ核兵器の出現をもたらしたが，世界平和にこのうえもない危険と考えられ軍縮や核兵器制限の努力が続いていることに留意させる。
	2. アジア・アフリカの解放		○欧米諸国の支配下におかれた国々（アジア・アフリカ）の民族主義の高まりという観点からそれらの国々の独立を	◎戦後，後進地域では独立国の成立を見たが民族運動に近代化のための社会革命がからみ米ソの対立が入りこんでいることに留意させる。 ◎植民地の独立により西欧は新しい運命

		3	考察させる。 ○世界に第三番目の勢力を生みつつあるアジアアフリカ諸国家の政治的独立は必ずしも経済的独立を達成していないことを理解させる。	の開拓の方向としてさかんに移住が行なわれていることに注目させ，日本人の今後の指針としたい。 ◎後進国地域の民族運動と国際的地位の向上についても正しい認識をもたせる。 ◎現代日本の世界史的地位を現在の国際問題に留意させ考えさせる。
	3. 現代の文化	1	○科学技術の発展を背景とした文化の多様性を理解させる。 ○現代文化の動向，特色について概観させる。	○科学の発達と国際政治との結びつきに留意させる。

（真岡農高校）

農業科（農業経営）学習指導案				指導者　菊地重雄	
日時・場所・クラス	昭和40年2月2日（火）第3時限　3A教室　農業科　第3学年A組				
単元	農産物の流通と農業金融ならびに農業協同組合（19時間）		教科書	農業経営（農業図書）	
小単元	農業協同組合（7時間）				
単元の目標	農協の正しい役割を理解し地域の農協が農業の近代化のために積極的な役割を果たせるための協力ができる態度を養う。				
指導計画	時間配当と本時の位置	1. 農産物の価格とその変動……2時間 2. 農産物の流通費と流通機構…4 3. 流通費の節約……2 4. 農業資本の供給と農業金融…4 5. 農業協同組合……7 —(1)農協の性格と事業……2 —(2)コチア産業組合……1（本時） —(3)農協の運営……3 —(4)農協の役割……1				
	本時授業の進め方	1. 本時の授業はできるだけわが国の農業協同組合とコチア産業組合とを対比しながら学習させ，生徒が海外の問題を身近なものとして学ぶようにしたい。 2. 協同組合主義を理解させるためコチア産業組合の指導についてはその成立と歴史に重点をおいて行ないたい。				
題目	コチア産業組合				
本時の目標	(1) コチア産業組合の歴史と現状を理解させる。 (2) コチア産業組合からわが国の農業協同組合が学ぶべき点を知らせる。				

学習過程		学習要項	学習活動	時間	指導上の留意点	準備と資料	評価
	導入	本時の学習内容と目標の指示	前時の学習内容と関連づけて本時の学習目標をは握する	5分			
	展開	(1)コチア産業組合の現状、 (2)コチア産業組合の歴史	○現在のコチア産業組合について次の事項を知る 組合員数　出資金 組織　事業と事業地域 ○コチア産業組合の成立の事情を知る。	10分 20分	○生徒に発表させて学習への興味をもたせるようにする。 ○教師の講義を中心に進める ○わが国の農協の成立事情との相違について考慮して指導する ○協同組合主義についての理解を深めるように指導する ○コチア産業組合の事業地域の社会経済的条件の変化について考慮する ○今までの学習内容と関連させて判断させるようにする ○わが国の農協の問題点と関連づけるようにし，組合員としての心構えをつくるようにする	コチア産業の現状を示す表 ブラジル地図 コチア産業組合の年表 わが国の農協の組織表 参考文献 栃教委編：「高等学校における海外教育指導手びき書」 コチア産業組合発行「コチア産業組合30年の歩み」 「ブラジル移民の手引」	○コチア産業組合の現状を理解できたか ○わが国の農協と組合員が学ぶべき点がわかったか
		(3)わが国の農協の学ぶべき点	○次の事項を中心にしてコチア産業組合の発展について知る 組合員数の推移 出資金の推移 事業の種類と量の推移 事業地域の拡大 組合運営の危機とその克服 ○わが国の農協および組合員が学ぶべき点を知る 組合員の協同意識 農協規模の拡大 弾力性のある組織	10分			
	終結	まとめと次時の予告	本時の学習内容をまとめ次時の予告をする	5分			

備考	クラスの実態 1. 在籍　55名 2. 生徒の進路……農業自営52名　進学2名　就職1名 3. 農業選択状況……大家畜16名　中家畜15名　作物24名 4. 生徒の家1戸当り平均耕地面積……水田146.2a　畑84.7a 5. 生徒の知能段階……(＋1)2名　(0)17名　(－1)25名　(－2)10名　(－3)1名 6. 学習意欲……「農業経営」の学習意欲はもっているが能力差が大きいので指導の面で留意を要する

農業科（農業経営）学習指導年間計画表

註（○印＝教科としての一般留意事項
◎印＝海外教育に関連のある留意事項）

単元	指導項目	配当時間	指導目標	指導上の留意事項
農業と農業経営	自給的農業と商業的農業	1	・農業が自給的なものから商業的なものにかわってきたことを理解させる。	○わが家の経営におけるおもな農産物の商品化率を国・県のそれと比較させる。 ○商業的農業の発展に伴いどんな経済競争が激しくなるかを考えさせる。
	商業的農業の発達と農業経営の分化	2	・農業が商業的になれば高い収益を得るための経営改善が重要であることを理解させる。	○収益上の分化の実態と意味を理解させる。 ○地域やわが家の経営を他の地域や優良農家の経営と比較させ，経営改善意欲を高めるようにする。
	農業経営の近代化と経営能力	2	・農業の近代化のためには経営能力を高めることが重要であることを理解させる。	◎先進国の農業が企業的経営としてどのように成立しているかを理解させる。
農業と経営組織	経営組織とその分け方	2	・経営組織の意味とその分け方を理解させる。	○地域の経営組織について資料を示して説明し，わが家の経営がどの種類に属するかを考えさせる。
	地域の条件と経営組織	5	・地域の社会経済的条件および自然的条件と農業経営との関係を理解させる。	○社会経済的条件の変化に伴う経営組織の変化を理解させる。
	中間生産物と経営の内部循環	2	・経営の内部における中間生産物の働きを理解させる。	○生徒の調査結果を発表させ中間生産物を価値高く利用している経営があることに気づかせる。 ○そのような関係を明らかにするためには労働日誌や農業簿記が必要であることを指導する。
	経営部門間の関係	2	・経営部門相互間に補合関係や補完関係や競合関係があることを理解させる。	○単一経営の実態を理解させる。
	単一経営と複合経営	2	・単一経営と複合経営における経営組織の違いを理解し単一経営が成立する条件を理解させる。	
農業労働の生産力と	農業労働とその季節性	3	・所要労働時間が作物家畜の種類によって違うことを理解させる。 ・作物家畜によって所要労働に季節性があることを理解し，作目の組み合わせによってそれを緩和できることを理解させる。 ・適期作業の効果とその方法を理解させる。	○作物・家畜の組み合わせ，機械化，品種の選択などによって労働配分を緩和し適期作業を行なう方法を理解させる。
	農業の機械化と労働生産	3	・労働生産力を高めるた	○経営規模と機械化との関係や機械の共

機械・諸設備	力		めには農業の機械化が必要であることを理解し，わが国において機械化の障害となっていることをのり越えて機械化を進める方法を理解させる。	同利用などについて指導する。 ◎諸外国（特にアメリカの稲作）と比較してわが国の農業が単位面積当り所要労働量が多く機械化の程度がおくれていることを理解させる。
	農機具の使用費と農業経営費	3	・農機具の使用費の計算方法を理解し，農機具の有利な使用方法を知らせる。	○減価償却費など農機具使用の経費計算ができるようにする。 ○経営規模の拡大が農機具の10ａ当り使用費を少くすることを理解させる。
農業所得と経営規模	農業所得と所得要因	2	・農業所得・所得率の意味とこれらの算定方法を理解し所得要因と所得額の関係について理解させる。	○経営費の算定については具体的に個別指導を行なう。 ○経営組織の種類によって所得率の違いが生ずる理由について考えさせる
	農業資産の種類と評価	5	・農業資産の分類，土地資産と償却資産の評価のしかたを理解させる。	○農業資産を評価する目的について具体的に考えさせる。
	労働所得と農業資本収益	2	・労働所得・資本利子率，収益率の意味とその算定方法を理解させる。	○労働所得と農業所得との関連について理解させる。
	部門別農業所得労働所得と生産費	3	・部門別の農業所得と労働所得を算定する方法と生産費の算定方法を理解させる。	○部門別の農業所得，労働所得生産費計算結果の経営改善への利用法を理解させる。
	経営の集約化と経営規模	2	・経営集約化の必要性とその原則的な方法を理解させる。 ・経営規模拡大の必要性とその望ましい方法を理解させる。	◎わが国および諸外国の農業が経営集約度の立場からどのような差異があり特質があるかを理解させる。 ◎「集約度限界」を理解させ，今後のわが国の農業の進むべき方向を理解させる。 ◎「集約度限界」に来た場合，労働所得をふやすには経営面積拡大の必要がある。この解決の一方法として海外移住にもふれる。
経営改善と経営設計	経営改善の要点と手順	5	・経営改善の目標，要点手順を理解させる。 ・経営診断，経営設計の意味とその方法を理解させる。	○基礎資料としての農業簿記の重要性を認識させる。 ○地域で標準となる経営類型別農家について調べた農業経営調査表によって基準設計と経営診断図を作成させる。
	経営設計	15	・わが家の経営診断を行ない望ましい経営設計を樹立させる。	○両親との連絡，個別指導を十分行なって家庭の経営設計を完成させ，経営能力を高めるように指導する。

	共同経営とその設計	3	・共同経営のねらいと問題点を理解し共同経営の設計と運営上の問題点およびその対策を理解させる。	○地域における共同経営の成功事例と失敗事例について説明し共同経営の問題点およびその対策を理解させる。 ◎諸外国における共同経営特にソビエトや中国における集団経営などについても理解させるようにする。
農産物の流通と農業金融ならびに農業協同組合	農産物の価格と変動	2	・農産物価格を変動させる条件，季節的変動，変動の長期的すう勢について理解させる。	○農産物の需要の長期的傾向を理解させ，農産物の価格変動を少なくし，農業経営を安定したものにするには農業者はどのようにすべきかについて討議させる。
	農産物の流通費と流通機構	4	・流通費の意味と内容を理解させる。	○農産物の種類によって農家の手取割合が著しく違う理由について話し合わせる。
			・おもな農産物の流通機構について理解し，流通機構と中間利潤との関係を理解させる。	○流通機構の中で農協，仲買人，卸売業者，小売人はそれぞれどんな機能を果しているかについて考えさせる
	流通費の節約	2	・流通費節約の方法を理解し主産地形成がそのためにどんな役割をするかを理解させる。	○地域にある主産地は流通費の節約など生産者の利益を増進するため今後どのような努力が必要とされているかについて考えさせる。
	農業資本の供給と農業金融	4	・農業資本の回転と運転資金の特質を理解させる。	○農業資金の季節的な需要について経営組織別に考えさせる。
			・短期金融と長期金融の特質について理解させる。 ・農業制度金融の意味と融資の受け方について理解させる。	○制度金融のおもな種類とこれらの資金の金利，償還期間，融資の条件などについて説明する。
	農業協同組合	7	・農協の性格と事業の種類について理解させる。	○地域の農協の定款を示してその性格と事業を具体的に理解させる。 ◎協同組合主義の歴史的発展や海外における農協(コチア産業組合)についても説明する。
			・農協運営の特質とその問題点の所在を理解させる。 ・農協の規模・運営内容・系統組織・農業金融に果す役割について理解させる。	○農協の規模拡大の状況と地域の農協はどのように運営されなければならないかについて討議させる。
	家族経営と家族生活	1	・農家の家族経営と家族生活の実態と近代的な家族生活のあり方につ	○家族経営の特質，都市世帯と比較した農家の家族生活の特徴について考えさせる。

農業経営と農村社会			いて理解させる。	◎諸外国における家族農業経営と比較すると共に南米における資本家的農業経営についても理解させる。
	「経営・生活」設計	2	・家族経営における農業と生活を含めた設計の重要性とその立て方を理解させる。	○生産物家計仕向け農業労働と家事労働，家計簿など両者の関連した事項とそれらを総合した計画と運営について考えさせる。
	農村の社会生活	2	・農村生活の近代化について理解させる。	◎先進国の農村生活について理解させ古い習慣を打破して農村生活の近代化を推進する態度を養う。
	農村の諸団体	3	・農村にあって，農業経営や農家生活に関係の深い団体の種類，組織任務，あり方について理解させる。	○諸団体の有効な活動が行なわれるため農業者はどのように協力すべきであるか，または諸団体の反省すべき事項などについて討議させる。
	農村計画	3	・農村の構造改善事業の意義と事業内容を理解させる。 ・農村計画の立案と実施上の要点について理解させる。	◎農業構造改善事業の推進により農業の労働生産性が向上し農民の新たな就業が考えられるが国際協力のもとに海外における農業経営の道がひらけていることを理解させる。 ○過去において効果をあげられなかった農村計画の事例などを示して学習を進める。
農業経営の近代化と農業政策	国民経済と農業および農業経営	3	・近年農業生産高の成長が他産業のそれより低く，農業問題が国の大きな問題となっていることを理解させる。 ・農外人口の増加と農業所得との関係を理解させる。 ・農村青年の離村と農家戸数の減少について理解させる ・経済成長の地域格差とそれが地域の農家所得に及ぼす影響について理解し，地域開発計画の意義を理解させる。	◎国民所得の中に占める農業の割合の低下の理由，農業就業人口との関係などについて考えさせる。 ◎産業別就業人口の推移と国民所得の動向を理解し，更にこれが先進諸国とどのような相違点があるかを指導する。 ○農村の若年労働者が減少する理由について考えさせる。 ○農家戸数と農業近代化との関係について討議させる。 ○国民所得と県民所得の格差について説明する。
	農業政策と農業経営の近代化	4	・農業政策の目標と種類および各政策の趣旨内容について理解させる。	○農業政策と農業経営との関連について理解させる。
	諸外国の農業	4	・諸外国の農業を知り，そのわが国農業への役だて方を理解させる。	◎イギリスの農業発展と農業政策を理解させ，どんなことが学べるかについて考えさせる。

		(105)		◎デンマークの集約的な酪農と農協組織を理解させ，どんなことが学べるかについて考えさせる。 ◎アメリカ農業の急速な発展，地域による経営組織の分化，農業の機械化農業改良事業，外国の農業に及ぼす影響について理解させ，どんなことが学べるかについて考えさせる。 ◎ソビエトの農業が革命以前と現在でどのように変化したかを理解させ，どんなことが学べるかについて考えさせる。 ◎東南アジアの農業経営の悩み，収量の低い原因，流通機構，小作関係について理解させ，わが国の農業とどんな共通問題があるかについて考えさせる。 ◎第二次大戦後における中国の農業制度の変化，生産力の向上，経営集団について理解させ，どんな意味で参考になるかについて考えさせる。 ◎ラテン・アメリカの農業については次のことに留意して指導する。 ・わが国とラテンアメリカの歴史的関係をとおしての農業事情の理解 ・ブラジルの産業と日本人との関係 ・海外移住事業団のブラジル経済開発への寄与 ・わが国とラテン・アメリカの今後の友好関係

真岡農業高校移住クラブの歌

加　藤　七　蔵　作詞
右　近　義　徳　作曲

1.　やはたが丘に若人の
夢ははるかな新天地
地図をひろげなごやかに
語る我等の集いには
輝く希望が待っている
行こうブラジル　オーアマゾン

2.　希望が丘の三年月
父や母との惜別を
笑顔で包み船出する
真農校の我等こそ
世界を継ぐかけ橋だ
行こうブラジル　オーアマゾン

3.　潮路万里を乗り越えて
原始の林を切り開き
ピメンタ植える若人の
心に秘めたわく情熱に
希望は実る新天地
行こうブラジル　オーアマゾン

クラブ活動（海外移住研究クラブ）指導案（真岡農高校）

日時	昭和40年2月2日(火) 昼休時	場所	生物室	指導者	教諭 稲川 誠
題目	クラブ活動の反省				

指導計画

事前準備	1. あらかじめ各グループ，各人ごとの反省事項を考えておくよう通達しておく 2. 行事の実施資料を持参させる 3. 行事実施表を記入させておく 4. 反省会場の準備をさせる 5. 反省会の運営について部長と相談をしておく
指導上の留意事項	1. 反省事項は①行事は計画どおりいったか ②行事がその目的にあうよう実施できたか ③全員の参加と活動はどうか ④その他等にしぼって反省してみるようにさせる 2. 反省会のふん囲気が全体にやわらかで全員がよく発言できるような気分をかもしださせるようにする

本時の指導過程

目標
1. 生徒がみずから活動の計画を作り自主的に活動できたか
2. クラブ活動を通して何を学びとったか……計画性(役員) 協調性(クラブ員) 指導員(役員)
3. 次年度にこの反省の結果をどう生かしたらよいか

		予想される活動		時間	資料	評価
導入		1. 開会とあいさつ	部長より開会をつげ，この反省会の意義とねらいについて話す	5分		
学習展開		2. 司会者の選出	○司会者はあらかじめ順番できまっているのでその順番によりきまる	15分	○行事年間計画表	○計画がよくでき活動が計画どおり実施できたか(役員)
		3. 本年度実施行事について話し合う (1)各行事ごとの反省 イ 研究集会 ロ 機関誌発行 ハ ポルトガル語学習会 ニ 移住船乗船 ホ 海外移住展	○行事の反省はその都度簡単な反省会がもたれたので，ここでは指導上の留意事項にあるような項目にしぼって反省しあうようにする		○行事年間計画表 ○行事実施資料 ○海外移住読本	○計画にもとずく活動が自主的によくできたか(クラブ員) ○皆なが協力して会の運営がうまくいったか(クラブ員)
		(2)各係ごとの反省 イ 資料係として ロ 図書係として ハ 部長副部長として ニ 庶務，会計係として	○特によかった点将来改善解決を必要とすることからについて発表させる	10分	○栃木県海外移住推進方策と事業計画実施要項	○部長は全員を上手にリードできたか（部長）
		(3)全般的な反省	○顧問として指導があればここでする	5分	○高等学校における海外教育指導手びき書	○反省にもとずき次年度の計画がたてられそうか（役員）
	終結	4. まとめと閉会	○部長より反省事項にもとずき次年度の希望をのべる	5分		

備考
○反省にもとずいた次年度の計画ができるよう近日中に次年度の行事計画をたてる会をもつことにしている
○クラブ部長 高平サイノ(3年) 副部長 戸上正巳(2年) 顧問 藤沢宏吉 稲川 誠
○部員 30名(男17名…女13名)

Ⅲ　栃木県海外教育研究協議会紀要

栃木県教育委員会
栃木県海外協会
海外移住事業団栃木県事務所
(昭和40年10月)

ま　え　が　き

本県においては，昭和39年10月に，「高等学校における海外教育指導手びき書」を刊行して，この教育の推進に努力してきた。

ところが，この手びき書が文部省，外務省，海外移住事業団の認めるところとなり同年12月に文部省初等中等教育局中等教育課長の推せんの言葉を付して全国の高等学校に配布された。

その後，昭和40年２月にこの手びき書を使った海外教育についての研修会を真岡農業高等学校において開催し，外務省中南米移住局大口総務課長，海外移住事業団赤坂業務第一部長ならびに文部省初中局中等教育課榊原教科調査官などの指導を得て海外教育の在り方について研究した。

その後県内各学校においては，この手びき書を参照しながら指導を展開したが，その間この教育推進上の種々の問題点が明らかになった。

そこで，本年８月夏休み中を利用してこの教育の研究協議会を別紙要項によって開催して研究した。本書はその研究成果の要旨をまとめたもので，海外教育の推進に役立つことを願って刊行したものである。

昭和40年10月

栃木県教育委員会
栃木県海外協会
海外移住事業団栃木県事務所

海外教育研究協議会日程

1. 日　時　昭和40年8月27，28日
2. 会　場　栃木県塩谷郡塩原町　憩の家
3. 日　程

第1日　（8月27日）

10.30～12.30	受　付
13.00～13.20	あいさつ 県農務部長 県教育長
13.20～14.20	講　演 「最近の海外事情と移住の趨勢」 外務省中南米移住局総務課長
14.20～14.50	講　演 「海外教育の現況」 海外移住事業団業務第一部長
15.00～15.30	オリエンテーション 県教委指導課産業教育係長
15.40～18.00	分科会
第1分科会	社会科における海外教育について
第2分科会	農業科における海外教育について
第3分科会	特別教育活動および学校行事等における海外教育について

第2日　（8月28日）

8.00～ 9.00	分科会（前日に引き続き）
9.20～10.30	海外移住の事務機構について 県農地開拓課拓植係長 県海外協会事務局長 海外移住事業団栃木県事務所長 栃木県拓植農業協同組合事務担当者
10.40～12.00	分科会
第1分科会	進路指導における海外教育について
第2分科会	生徒指導における海外教育について
第3分科会	学校経営と海外教育について
12.30～14.00	全体会議
14.00	閉　会

学 校 経 営

1. 高校教育に「海外教育」を導入する場合の問題点

(1) 校長，教頭など学校経営の中心となっている人が海外教育の本質についてよく理解している学校における海外教育はよく行なわれているが，このことについて関心のうすい学校におけるそれは極めて低調である。

したがって校長，教頭などのこの教育に対する理解と関心の有無が，この教育を推進するうえの最大の問題点である。

(2) 次にこの教育を推進するうえに重要なことは，全職員のこの教育に対する理解と協力態勢にある。この教育を推進するためには各教科，特別教育活動，学校行事等など学校教育の全領域において互いに関連を保ちつつ展開されなければならない。したがって，全教員の理解と協力が必要である。

(3) 全校教員の理解と協力とを得るためには，先ず学校の校務運営組織の中にこの教育を推進する主任担当者を明確にするとともに，特別教育活動のクラブにも海外研究クラブ等を設置するなど校務運営組織の中にこの教育推進のための組織が折りこまれたものとなっていなければならない。

(4) この教育推進の成否に関する重要な要件の一つに，海外教育を主として担当する教員の熱意と努力とがある。その人をえた場合には全教員のこの教育に対する理解を深めるとともにこの教育推進のための協力体制もよくととのえられる。

また，生徒の海外研究クラブ等の活動も活発になる。したがってこの教育担当教員の熱意と努力如何が大きな問題点である。

(5) 各教科の指導においては，この教育の本質をじゅうぶん理解したうえで指導を展開しないと，各教科の本来のねらいをゆがめることになりやすい。

(6) 特別教育活動のうち，学級活動やホームルームの指導における問題点は，海外理解や国際協力についてのきめの細かい指導と活動が展開され難い点にある。

これが原因は，指導に当る教師のこの教育についての理解と熱意の不足からくる場合が圧倒的に多い。

また，海外研究クラブ等のクラブ活動においては，まずそのようなクラブ設置についての要望が生徒の側から自主的に出してくるような学校全体のふんいきの醸成がたいせつである。

(7) 学校の全校生徒に同時に指導を展開することのできる学校行事等で，海外理解や国際協力などに関する講演会，映写会を開催したり，学校祭の際に海外展などを開催することは，全校生徒に広く海外にも目をむけさせ国際人として自覚をもたせるうえに重要なことである。

しかし，多くの学校の現状は海外事情の講演会等を開催しても，それがこの教育推進の立場から意識的に行なわれている場合は少ない。

(8) この教育を推進するためには，この教育のねらいや内容を明確にするとともに，教育の全領域にわたって有機的な関連を図りながら進めなければならない。そのためには，教育行政指導の任にあたる教育委員会の指導や関係各機関の強力なる協力を必要とする。

2. 今後の課題

(1) 校長，教頭など学校経営の中心となる人々に対しこの教育の本質についての理解を高めるための機会を設ける必要がある。

(2) 一般教員に対するこの教育についての現職教育は，各学校においてこの教育の中心となる者についての研修は年2～3回実施し，そのうちの1回は少なくとも1泊2日間寝食を共にした研修会とする必要がある。

その他一般の教員に対しては，それぞれの教科，領域の研修会の際にこの教育についてもふれるようにする必要がある。

(3) 各学校の校務運営組織の中にこの教育の担当を明確に位置づける必要がある。

(4) 各教科，特活，学校行事等の指導にあたっては，機会をとらえて意図的，組織的にこの教育にふれて指導する必要がある。

(5) この教育を推進するためには教育委員会の指導と関係各機関の強力なる協力とが必要である。

特に関係各機関は適切な資料等を豊富にもっていると共に関係方面との連絡をつけ易いので適当な講師の斡旋などについても積極的な協力が必要である。

社　会　科

海外教育指導者講習会(まとめ)

1.　高校社会科に「海外教育」を導入する際の問題点

(1)　手びき書にもあるように，社会科はその性格上「海外教育」と直接的なつながりを持っている。したがって，社会科それ自体の目標にしたがって指導を行なうこと自体，「海外教育」のねらいに背反しないわけである。しかし，社会科諸科目の個々の指導計画のすべてを，「海外教育」のねらいのもとに編成しようとすることは，かえって「海外教育」の本質をゆがめることにもなるので，手びき書に記載のある「海外教育と関連のある指導項目」を指導する際，折にふれて指導するという態度が基本となろう。

(2)　したがって，手びき書にある指導事例(例えば愛国心の指導案)を，各科目における「海外教育」のための特設時間と理解してはならない。指導要領に沿った本来の社会科の授業の中で「海外教育」との関連が比較的得易い指導項目での展開例と理解すべきである。但し，指導する際，前に述べた「関連ある指導項目」の中で，特に「狭義の海外教育」の指導事例ともなる所もあり得るわけだが，「海外教育」の本質をゆがめぬためにも，それを強調することは望ましくないように思われる。

具体的に言えば，「海外教育」を「海外移住教育」と理解し，移住と結びつき易い指導事項でその強調をはかれば，一見実効の上がるようにも思われるが，実際には，生徒の能力の発達段階から考えて無理な面もあり，また，「海外教育」の全体性，統合性の本質にもとることになる。

(3)　「海外教育」は，社会科科目のすべてで取り上げられたものが，全体として統合されて始めてその目標を達成できるものである。したがって，ある科目に偏りすぎた指導になってはいけない。例をあげれば，地理A・Bや政治・経済が，それぞれの科目として持つ特色ゆえに独走したり，反対に倫理，社会等が関連なしとして，「海外教育」に理解を示さなかったりすることは，さきに述べた社会科と「海外教育」との関連から好ましいことではない。地理，歴史の流れ，政治，経済の当面する諸問題，倫理，社会での人間に対する思惟，それらが一体化したものでなければ，「海外教育」即「海外移住教育」となる危険性をはらむものであろう。

(4)　一方，「海外教育」の中で「移住」についての項は，極めてデリケートな問題を持つだけに，その取り上げ方も慎重でなければならない。ということは，日本における移住の歴史が軍国主義的であり，口べらし的，国勢発展の手段としてのみ記されているからで，指導にあたっては過去の誤った移住政策の批判だけに終始することなく，正しい国際理解に根ざす新しい移住のあり方を指導する必要がある。その際，指導が生徒の移住の直接的な橋わたしをするというのでなく，将来海外と関連を持つようになった際，また，海外との積極的な協

力関係を持つよう，その基盤としての社会科教育であることを忘れてはならない。

2. 手びき書における具体的な問題点

(1) 倫理・社会については，指導書にもあるように「人生いかに生きるべきかについて思索させることをねらいとして構成」されているので，その意味で彼らの主体的な生き方に充分な指針を与えるように努力すべきである。民族を超えた幅広い人類愛を「現代の思想」の中で「シュバイツアー」から，海の彼方の多数の人々の心の軸「キリスト教」を「西洋思想の源流」から，民族や国家という社会の中での望ましい人間関係のあり方については，「社会集団における人間関係」の中の「国家と国際社会」から，というように，21世紀に生きる視野の広い人間の生き方を，先哲や社会集団の中から学びとらせるようにしたい。

手びき書の指導事例は「愛国心」の項で展開をはかっているが，愛国心については「民族の独立と自由を守るための国民的自覚」として示される場合や，人類愛の立場から「国家相互の独立と発展を認め，世界平和と人類の福祉を希求する」というインターナショナルな立場もあり，その指導を特に「海外教育」と結びつけて行なうことには慎重な態度を必要とする。したがって，指導例示としては，「青年期の問題」の中で「青年の進路」として取り上げ，特別教育活動の中のL.H.Rと関連させたような事例が欲しかった。

(2) 政治・経済については，指導上の留意事項(3)に「現実の諸問題に深い関心をもたせるとともに，その解決の基礎となる基本的事項についての理解を深め……」とあるように，原理，原論的内容よりは動的な政策面を重視してゆく必要がある。例えば，「国際経済の現代と課題」の中で，貿易の自由化や南北問題を把え，新鮮でしかも正確な資料を活用して，国際社会におけるわが国の地位の認識とその使命を自覚させ，国際協力の態度を養うよう指導すべきである。

手びき書では，「農業と農村問題」についての展開例をのせてあるが日本の農業問題は，かつて「行け満州」へのイメージとも結びつく可能性もあり，口べらし的な棄民思想と海外移住とが重なり合うことは，「海外教育」の本旨にももとることになるので，指導にあたっては充分な注意を払う必要がある。

なお，政治経済の内容は，地理A，Bとも関連が深いので，指導にあたっては，例えば「さまざまな生産様式」とか「地域的特色」等については地域A，Bに委ね，重複を避けるように配慮したい。

(3) 日本史については，特にその目標の(5)に，「日本史の発展を常に世界史的視野に立って考察させ，世界におけるわが国の地位や，文化の伝統とその特質を理解させることによって，国際社会において日本人の果すべき役割について自覚させる」とあるが，一般的には，政治・経済や地理A，Bに比し，「海外教育」への接触度は少ない。しかし，より徹底した日本の歴史の理解は，そのまま世界における日本の地位に結びつかなくてはならぬはずであるから，日本史を全体として眺め，世界全体に共通する人類としての普遍的な傾向を認めさせるようにすることが大切である。

なお，倭冠や「明治維新」の中で扱われる初期の海外移住，「第二次世界大戦と日本」の中で扱われる海外移住などについては，前に述べたような短兵急な「海外移住教育」となる可能性もあり，しかもそれがマイナスに働くことも考えられるので充分な注意を要する。

(4) 世界史については，科目そのものが「海外教育」と関連する個所多く，それだけ「折にふれて」というアクセントの付け方が難しい。ヨーロッパ人の国際的感覚が，現在幅広い国際活動の基調になっていることを世界史の流れの中から読みとらせ，閉じこもりがちな日本人でなく，国際的に発展する日本人としての能力を身につけるようにさせるには，単にヨーロッパ人の移住の歴史から学びとるだけでなく，市民革命，産業革命，帝国主義と第一次世界大戦等の学習を通じて学びとらせる必要がある。

また，ヨーロッパにおける移住の歴史が，見方によっては侵略的移住の歴史であったとしても，新しい理解と協力のためには，それを前向きの姿勢で受け止める必要があろう。

(5) 地理A，Bについても世界史と同じようなことが言える。即ち地理の目標そのものが，「海外教育」のそれと一体化しているわけであって，特に特定の項目にアクセントをつけることなく，全体としての理解を尊重するようにしたい。例えば，人口問題等についても，教科書によっては人口過剰の解決策として移住が取り上げられているようであるが，アクセントのつけ方によっては正しい理解の得られないこともあるので，あくまで全体として……という観点を忘れないようにした。指導にあたっては，できるだけ新鮮な資料，特に視聴覚教材を活用し，いきいきとした授業を通じて，生徒に新しい世界を発見させるように心掛けるべきであろう。

(6) 最後に，以上に述べたことは，実は相互に密接な関連をもって全体として「海外教育」の目標を達成するものであるから，指導にあたっては各科目の目標とともに全体としての社会科の目標と「海外教育」のそれとの関連に留意するように努めなければならない。

3. 今後の課題

(1) 「海外教育」を生徒に充分理解させるためには，まず教師の理解が充分になければならない。実際，手びき書を作成した委員ですら，手びき書以前には考えの及ばなかったようなことが，手びき書を作成して始めて「きめ細かな」授業ができるようになったと述べている。手びき書の「性格とそのねらい」ににもあるように，今日の政治，経済，文化についての多くの問題が，国際的な関連のもとで起っており，世界の諸国民の連帯の必要度が増しているにもかかわらず，教師がひとりその流れから取り残されて良いはずはない。

校内での現職教育を活発にし，まず教師自らが「海外教育」の良い理解者となることが先決である。その際，「海外教育」の本質をよく理解し，教師が一般にあるような誤った移住観による海外教育に陥らぬよう努力すべきである。

(2) そのためには，教師の現職教育資料を整備することが急を要することである。わが国はあらゆる場において国際的な発展を遂げているにもかかわらず，実際にはそれが教材として活用できる形として，即ち資料にして教師に与えられないことが多い。実際手びき書を作る際

にも，また1年間この手びき書による実践を通じても，それが最大の問題点であった。また，現在ある資料も，多くは，「海外移住」それも「農業移住」のための資料であって，普通高校や工業，商業高校にとってはかえって使い難い資料となっている。また，「農業移住」の資料を利用するには，それが「海外教育」の目標達成を誤らせないために，格段の配慮をしなければならない。技術移住や企業の海外進出，世界各地で活躍する日本人の姿などの，新鮮な資料を熱望して終りとしたい。

農　業　科

1.　高校農業科に「海外教育」を導入する際の問題点

(1)　海外教育導入の容易な科目は「農業経営」である。この科目の指導に当っては，絶えず先進諸外国の農家の経営規模や組織，生産性，農業協同組合の状況などについても指導してわが国農業近代化の指針とする必要があるが，それらに関する資料の入手が困難である。

(2)　上記のような状況にあるために，教師の外国農業についての見聞が極めて少ない。そのために，それらの指導は，海外教育について熱心な一部の教師だけが行なっているに過ぎない。

(3)　外国の農作物の栽培法についての指導を授業に取り入れることまでの必要性は認めないが，海外移住を希望する一部の生徒に対しては課外でそれらの指導を望む教師もあるが，それらの資料がない。

(4)　農業後継者を教育する農業高校の農業科で海外教育を強力に推進すると，全面的に海外移住教育と理解し一部無理解な父兄から批判されることもある。

　そのためそれらの父兄の啓蒙に地道な努力が必要である。

(5)　海外移住を希望する生徒の中には，移住地における作物，家畜に関心を持ち，作物栽培や家畜飼育の基礎理論に対して意欲的でないものもある。土地の環境条件に応じて有利な農業経営を行なうには，基礎的理論とその応用力とを身につけさせ，それらを基盤としたアイデアと実践力とをもった人間を育成しなければならない。そのためこれらの生徒にも基礎的理論の指導を強化する必要がある。

2.　手びき書における具体的な問題点

手びき書の指導内容や資料について検討の結果，つぎのことについては追加強調する必要があることがわかった。

(1)　指導項目「農業と農業経営」では貿易の自由化を考え，小麦や畜産物の価額変動の実例をひいて農業経営の近代化の必要性を強調する必要がある。

(2)　指導項目「農業所得と経営規模」については，米国，ドイツなどの農業先進国の農家の所得や経営規模の実例をあげて指導するようにする。

(3)　指導項目「農業協同組合」においては，日本人の手によって運営される世界的に有名な規模と組織とをもつコチア産業組合についても説明して学ぶべき点を指導する。そのための資料としてコチア産業組合編「コチア産業組合30年の歩み」を入れる。

(4)　指導項目「諸外国の農業」においては，ブラジルの農業にもふれ，その際ブラジルの農業の開発にはわが国の移住者の技術と努力とが大きな原動力となっていることについても指導する。そのための資料として栃木県拓植農協連「南米移住地調査書」を加える。

3.　今後の課題

(1) 農業の海外事情についての資料が断片的に単行本等で出版されているだけで，まとまった資料がない。そのため指導教師の努力で資料の収集に当ることがたいせつであるが，個々の教師のしかもこのことについて組織化されない教師の努力ではそう大きなことを期待できない。

そのため，今後関係機関の協力を得て教師の力で組織的に資料の収集，編集，刊行を行なう必要があろう。

(2) 海外教育や海外移住教育についての意義を正しく理解するよう，父兄や地域社会の啓蒙を行なう必要がある。

(3) 農業生産の基礎的理論の指導を強化し，応用力，実践力ある人間を育成するように努める必要がある。

特活・学校行事等

第1日　第3分科会(特活，学校行事等)

1.　ロングホームルームにおける海外教育

司　会　(栃農高)　　増　山　志　知

記　録　(宇商高)　　亀　井　　功

助　言　(指導課)　　小　柳　恭　郎

参加校　10校(宇工高，宇商高，足尾高，真農高，栃農高，栃商高，大高，那農高，馬高，烏高)

はじめに，ロングホームルームにおける海外教育をどのように実施しているかについて各校の事例を情報交換として紹介することになった。

概要は下記のとおりである。

(真農高)　ホームルームで海外教育そのものズバリのテーマを掲げてはいないが，関連あるテーマでふれている。

(足尾高)　本校でも同様であるが，海外教育に関するテーマは，指導計画においても必要なものとして組み入れてゆきたいと考えている。

(栃商高)　海外教育を意識的にテーマとしてとりあげてはいないが，愛国心，国民性のようなテーマで間接的に行なっている。

(その他の学校では，意識的にとりあげてはいない。)

次に，上記の情報交換をもとにして，次のような意見や希望が述べられた。

(真農高)　ホームルームの資料として，ＮＨＫの学校放送「青年期の探求」や「時の話題」でも海外理解についてのテーマをとりあげているから，それらのものも利用できるのではなかろうか。

また，フィルムやスライドなども，大使館や拓連，移住事業団から借り出すこともできるし，講演会講師のあっせんもしてもらえるので，学校側に計画があれば，それらを利用することも出来ると思う。また，本校では，クラブで「海外研究だより」を発行しているので，これらも利用することができる。

ただ，事業団からも，積極的に資料の配布や，講演などの便宜を図っていただけるとありがたい。学校としては，海外教育に理解があっても，正確な情報や知識が得られない点に問題点があるので，特にこのことについてお願いしたい。

おわりに，助言者から，次のようなまとめがあった。

(助言者)　ロングホームについて，海外理解ないし，国際協力に関する問題を論議することは必要である。今後はますます，国際性ある日本人の育成ということが大切なことであるし，進路指導の点からも，わわれわれの進路は単に国内だけでなく，海外にも

あること，海外の経済開発に協力することも意義あることなどを理解させ，考えさせることは必要である。少なくとも，1年から3年までの間に，意図的，計画的にとりあげることはたいせつではなかろうか。そこに問題となる資料情報のことは，今も話し合いにでたように，事業団始め関係当局の積極的な提供をお願いしたい。

第2日

2. クラブ活動と海外教育

最初に，真岡農高の海外研究クラブの活動情況について次のような報告があった。

（真農高） 本校の海外研究クラブは，部員は約30名，年間予算2万円で，「海外研究だより」という機関誌を年2回発行し，海外移住展の開催（手紙，写真，テープ，南米の農具などを展示），見学，座談会など行なっている。活動の結果として，移住を中心として，外国について調査してみようという関心が強くなっているようである。

その他の学校では，（宇農高）でも，せっかくクラブが設けられても，認識が足りないため，部員が集まらなかったり，予算面で抵抗があたっりして，育ちにくいという反省があり，また，（大田原高）では，ユネスコクラブがあって，広い意味での海外理解，国際協力についての活動を実施している。ユネスコクラブの活動が活発な高校は，この他に宇高，宇女高，宇商高などがあった。

おわりに，助言者から次のようなまとめの言葉があった。

（助言者） これからの日本人は，海外に出てゆく機会も多いから，海外について関心をもち，認識を深めておくことは，高校時代においても大いに必要なことである。ユネスコ，英会話，ペンフレンド，ＪＲＣなど設けている学校も多いので，これらを基盤に，海外研究クラブを有している学校はそれを中核にして活動を助長してほしいものである。ただ，海外移住を正面切って出すことには問題もあるので，海外理解，国際協力を中心として，広い意味での海外教育を行なうことがよいであろうし，各国の大公使館を通じて，資料，情報を入手することもよいのではないかと思う。

3. 学校行事等と海外教育

学校行事等で行なう海外教育としては，講演会や映画会が考えられる。効果的であったと思われる事例として，次の例が報告された。

（栃商高） 昨年のオリンピックの際，ブラジルチームの監督で来日した先輩に講演をお願いしたが，ブラジルで商業を営む方で，生徒も興味深くブラジルの事情を聴いていた。

講演会については，新聞社や，事業団，拓連，海外協会等の協力を仰ぐとよいという意見もあり，そのためには，それらの関係諸機関に積極的に協力を依頼したり，また，情報の提供を受けられるとつごうがよいという声もあった。

映画会については，やはり機械装置の設備や，暗幕装置の完備した教室を設けることが先決で，それさえ完備すれば，関係諸機関からフィルム類を借りて利用することも可能であり，また必ずしも平日に開催しなくても，土曜日の午後などを利用すれば，授業時数を欠かないですむ。

要は，海外教育のための機会を意図的に設けるよう努力することが必要であるとともに，フィルム目録など，情報として，関係諸機関から提供していただけるとありがたいという要望があった。

生 徒 指 導

海外教育指導者講習会(まとめ)

1. 「海外教育」と生徒指導

(1) 国際的に発展するための資質について，海外移住事業団赤坂部長のオリエンテーションによれば，およそ次の5項に集約される。

① 健康であること。

② 強い信念を持ち，挫折しないこと。

③ 開拓者精神，特に創造性に富むこと。

④ 研究心の旺盛なこと。

⑤ 協調性に富むこと。

しかし，以上の5項目は，特に海外に発展する人間の資質としてでなく，高校生に要請される基本的なものとも受け取られる。しかし，焦点を上記5項目のうち，特に栃木県の高校生に要請される資質にしぼって考えてみたい。

(2) 現在の高校生の行動の中で，特に「主観的であり，利己的であり，依頼心が強い」といったことや，「義務を果たさず権利のみ主張する」といった傾向を指摘する者が多い。これらを(1)にあてはめて考えると，③や⑤の欠除が際立っているように思える。これらの傾向を是正するためには，学校としてどのような努力をすべきであろうか。

勿論，このことはひとり生徒指導の働きだけでは充分でなく，学校としての教育目標の設定(学校経営)や，学校行事等における個別計画立案の際の留意点，各教科指導の際の生徒指導的配慮，特別教育活動における諸活動等を通じて，統合的な作用として，ひとりひとりの生徒に働きかけなければならないわけである。具体的に言えば，「依頼心の強い」という傾向に対して，教科指導では……，学校行事等では……，特別教育活動では……，といった各領域がそれぞれ生徒指導としての働きを意識して指導する必要があるということである。

(3) まず各教科における指導について考えてみると，ある意味では依頼心を助長するための指導が行なわれているのではないかとの感を深くする。

したがって，前掲③の傾向は，現在の学校教育が育てあげたと言えなくもない。実際教室において，もっと自主的に「考えさせる」前に「教え」てしまったり，「自分で」仮設を立てるべきものを「教師が」レールを引いてしまうことが日常的なこととして行なわれている。この際，生徒指導の係としては，授業研究会等にも究極的に参加し，特に「海外教育」の意識からでなくとも，生徒の自主制，自発性を助長するよう助言すべきであろう。また，権利ばかり主張する非妥協性については，グループ学習などを通じて，「協調性」を養うよう努力したい。

(4) 学校行事等および特別教育活動については，別項でも説明がなされているので，ここで

は，生徒指導の見地からみると，③に対しては学校行事等においてできるだけ生徒の究極的な参加を認め，仕事の分担もある程度生徒に与えて，ただ学校が主体的に計画，立案するものだから……といって「教師」だけで事を運ぶことのないよう注意したい。

特別教育活動については，その目標ならびに設置の意義そのものが，③と直結するので特に生徒指導として強調するまでのことはない。

⑤については，学校行事等の目標達成のために，より多くの人々の共同と分担が必要であることを理解させ，利己的な生き方が全体の生活の中で受け入れられ難いことを強調するようにしたい。

(5) 領域外の指導については，特に教育相談の機会を通じて生徒により多く接触し，より徹底した「生徒理解」をはかることが大切である。一般に「創造性」や「協調性」については，高校段階としてたんなる職教育では徹底を欠くことがない。生徒が，自分で自分の進路を見極め，自分で考え歩むようになるためには，学校における教育相談をより活発にするような必要があろう。そのようなカウンセリングの場面を通じてこそ，海外に発展しようとする自己を発見させることができるのである。

2. まとめ

学校における生徒指導は，ただ学校教育の枠内に止らず，広く社会や家庭における生徒の生活にも目を向けなければならない。そのためには，家庭や地域社会との連絡，協力体制を一そう深め，機会を設けて「海外教育」の趣旨を説明する等が必要であろう。地域社会の啓蒙には長年月を要することが多いが，教師としては決して功を急がず，長い目で見てゆこうとする態度が必要である。

進　路　指　導

第２日　第１分科会記録（進路指導）

「進路指導に海外教育をどのように取り入れるか」

司　会　（栃商高）　　髙　橋　重　松

記　録　（真農高）　　菊　地　正　昭

助　言　（指導課）　　小　柳　恭　郎

参加校　８校（宇工高，宇商高，足尾高，真農高，栃商高，矢板高，大田原高，馬頭高）

進路指導の面で海外教育を取り入れている例として，次のような紹介があった。

（宇商高）　ロングホームの中で，「進路の選択」というテーマにおいて，海外にも進路のあることにふれて，気付かせている。

（矢板高）　本校では，講演会や映画会を年に１，２回開催しているが，これは進路に対して眼を開くという点で，進路指導にも大いに役立っていると考えられる。

さらに各校からも，ロングホームルームにおける進路指導で海外進出についてもふれているという発表があった。

さらに，話し合いの結果，次のような結論づけがなされた。

(1)　ロングホームルームにおける進路指導

進路指導に関するテーマは，教師の側である程度計画的，系統的にとりあげるよう指導すべきで，海外発展についての指導のためには，やはり，教師がそれについて理解のあることも必要であり，また，必要な資料の中では，その学校の卒業生の進路状況（特に海外に進出し発展している者の）は貴重な第一次的資料である。

また，進路指導は，夢を育てることでもあって，ややもすれば，小市民的生活に甘んじ勝ちな者の多い昨今，もう少しスケールの大きい夢を将来の進路においても考えさせることは大切ではなかろうか。

(2)　その他の場における進路指導

各教科，特に社会科の授業でも農業経営という科目でも，間接的であっても，情報提供は行なわれるものであるし，講演会，映画会，見学などでも，当然，進路指導に関連の深いものがあるのでそれらにおいてもふれてゆくべきものと考えられる。

(3)　個人指導の場における進路

ロングホームルームや，その他の場における進路指導の発展として当然，生徒の中には，より具体的な指導を必要とする者も出てくる。特に海外進出や海外移住を希望する者に対しては，学校内だけで解決することは困難であって，関係諸機関から資料や情報の提供を受けるだけでなく，専門機関へ橋渡しする必要もある。その意味において，関係団体，官庁などの情報提供やＰＲをより積極的に行なって欲しいものである。